

令和元年度

事業報告書

令和元年度第9期(平成31年4月1日から令和2年3月31日まで)の事業活動について、次の通り報告いたします。

令和2年3月31日

公益財団法人 国際交通安全学会

会 長 武 内 和 彦

目次

令和元年度事業活動の概況	1
1. 事業目的	2
2. 事業内容	2
3. 展開にあたっての重点	2
4. 令和元年度の特記すべき活動	2
5. 主たる会議	3
1)評議員会	3
2)理事会	3
3)創 50 戦略会議	5
4)企画調整委員会	6
5)「人」委員会	7
6)年次交流会	8
6. その他	9
国内外の「交通安全」にかかわる社会貢献事業	13
I 研究調査事業	14
1. 平成 30 年度研究調査報告会	14
2. GRATS	14
3. 令和元年度研究調査プロジェクト	17
<1902A>(新規)	
広場・歩行空間における群衆行動の観測とその制御による安全性向上に関する研究	18
<1904B>(継続)	
都市の文化的創造的機能を支える公共交通の役割	20
<1905B>(継続)	
自動運転の時代と交通体系:人間、AI、交通社会	22
<1906B>(継続)	
児童生徒等に対する効果的な交通安全教育を普及させるために何が必要か ～教育普及スキームの構築研究～	24
<1907C>(継続)	
健康起因事故防止のための実証的研究と防止対策の普及啓発に関する研究	26
<1920 社会貢献>	
東南アジアのモデル地区における情報共有型交通安全対策スキームの社会実装	29

<1940C 国際連携>(継続)	
インド小規模都市群における地域に根ざした計画・デザインの提言と社会実装の取り組み ～持続可能な開発目標(SDGs)への貢献を視野に～	31
<1941B 国際連携>(継続)	
二輪車文化を活かし安全を基本とした ASEAN 地域の持続可能な交通まちづくりの提案 ～タイの交通死亡事故多発都市を中心に～	33
<1930 海外調査>	
諸外国における交通関連施策の計画及び実施状況と関連情報調査	35
<1970 国際発表>	
1807B「健康起因防止のための実証的研究と防止対策の普及啓発に関する研究」	37
4. 令和元年度研究調査内部報告会	38
5. 外部施設視察による研究情報の収集(IATSS 視察会)	38
6. 研究調査部会企画委員会	39
II 広報出版事業	40
1. 広報出版部会 学会誌編集委員会	40
2. 広報出版部会 英文論文集編集委員会	42
III 褒賞事業	45
1. 第 40 回(平成 30 年度)国際交通安全学会賞贈呈式	45
2. 第 41 回(令和元年度)国際交通安全学会賞	45
3. 令和元年度褒賞助成部会企画委員会	49
IV IATSS フォーラム事業	51
1. 現地委員会との協議結果を反映した新研修プログラムの推進	51
2. IATSS 研究調査活動等とのコラボ展開	51
3. IATSS フォーラム開催	52
4. 研修プログラム	53
5. 第 12 回 IATSS フォーラム国際委員長会議	53
6. IATSS フォーラム部会 IATSS フォーラム実行委員会	53

V 国際交流事業	58
1. 国際フォーラム実行委員会.....	58
2. ATRANS(Asian Transportation Research Society)への業務委託	60
3. ESRA2 プロジェクトへの貢献	61
4. 交通事故削減に取り組む国際的な組織とのネットワークの強化	62
VI 事業運営等	63
1. 新型コロナウイルス対応.....	63
2. 学際研究者育成プログラム(連携会員(仮称)制度)の試行準備の実施	63

令和元年度事業活動の概況

1.事業目的

「理想的な交通社会の実現に寄与する」

2.事業内容

- 1)交通及びその安全に関する調査研究
- 2)交通及びその安全に関する研究会の開催
- 3)交通及びその安全に関する情報、資料及び文献の収集及び発行
- 4)交通及びその安全に関する調査研究、教育その他の活動に対する褒賞
- 5)諸外国における理想的な交通社会の実現に向けた研修
- 6)その他本会の目的を達成するために必要な事業

3.展開にあたっての重点

- 1)学際性並びに国際性を特徴とした先見性及び実際性を旨、活力ある事業運営
- 2)社会及び経済環境を直視した事業規模とし、予定される収入を基とする効率的かつ均衡のとれた事業運営の継続

4.令和元年度の特記すべき活動

1)創立 50 周年(2024 年)に向けた国際性の強化

創 50 戦略会議を中心に国際性の高い事業の充実に努めているところであるが、「第 5 回国際フォーラム(GIFTS)」においては、「社会経済開発と交通安全—アジアの国際協力における「交通文化」の意味」をテーマとしたシンポジウムとセミナー「日本の交通安全施策と意識」、ワークショップ「交通文化と交通安全対策の国際展開の方向性」を何れも公開で開催、国内外より会員を含む多数の研究者等が参加、更に内閣府、警察庁、国土交通省の担当幹部も加わり活発な討議が行われた。また、日本交通心理学会との共催により、Bryan Porter 教授(米国 Old Dominion 大学)による「高齢者の安全とモビリティについて」の講演会を実施したほか、学会関係者の交流をはかるための「年次交流会」では、「GRATS」の経過報告と、会員による「交通文化と交通安全対策の国際展開の方向性」をテーマとした座談会を実施した。

研究調査としては、創 50 戦略会議の下で戦略プロジェクトの第二弾として「GRATS」を開始し、交通安全の国際比較研究や関係団体との交流拡大に取り組んだほか、各研究調査プロジェクトにおいても、海外での研究や国際連携に積極的に取り組んだ。平成 30 年度より参画をしている Vias institute(ベルギー)が所掌する多国間の文化比較調査プロジェクト「ESRA2」では日本を対象とした調査と収集データの分析を行うと共に、東南アジアにおける調査対象国の拡大に貢献した。

2)出版事業の高度化

- ① IATSS Review では、より多くの読者へ閲覧および投稿の機会を提供し、読者にとっての有用性を高めること、及びジャーナルの信頼度向上を図ることを目的に、多くの主要な文献サイトと連携した J-STAGE での電子ジャーナルの公開をしており、当学会ホームページ(PDF)との 2 本立ての公開としていたが、正確なアクセス数把握のため J-STAGE への一本化を行った。

② IATSS Research においては学術誌としてのパフォーマンスの向上に努めると共に、IATSS イベント等での本誌 PR を目的として、特集号・特集セクションの冊子版を発行した。投稿論文数の増加に伴う Editor 強化のため海外を中心に 12 名の新規 Editor を決定した。

3)IATSS フォーラムの参加国拡充と研修内容の高度化

IATSS フォーラムではインドからの研修生を正式に受け入れて、対象参加国を 10 ヶ国に拡大し研修を実施した。また、IATSS フォーラム実行委員会では、研修内容の進化のための新研修プログラムの検討を実施すると共に、IATSS 研究調査プロジェクトとの連携を通してリソースの有効活用を図るため IATSS 会員による都市計画に関するプログラム実施した。更に、11 月には第 12 回国際委員長会議を開催し、2021 年から実施予定の新研修プログラム内容等について情報共有と議論を行った。

5. 主たる会議

1)評議員会

第 18 回評議員会(定時評議員会)(R1.06.06)

経団連会館 5 階 502 会議室に於いて開催し、次の(1)、(4)項については承認され、(2)、(3)項については選任された。

- (1)平成 30 年度事業報告及び平成 30 年度決算承認の件
- (2)評議員選任の件
- (3)役員選任の件
- (4)定款及び評議員会規程第 7 号の改定の決議

第 19 回評議員会(臨時評議員会:みなし決議)(R2.03.19)

評議員 9 名から電磁的方法による全員の同意が得られたため、以下提案を承認可決する旨の評議員会の決議があったものとみなされた。

- (1)令和 2 年度事業計画及び収支予算書承認の件
- (2)評議員選任の件

2)理事会

第 36 回理事会(通常理事会)(R1.05.16)

経団連会館 5 階 504 会議室に於いて開催し、次の(1)項については承認され、(2)、(3)項については決議され、(4)、(5)項については報告がされた。

- (1)平成 30 年度事業報告及び平成 30 年度決算書類等の承認
- (2)理事会規程第 9 号改定の決議
- (3)第 18 回評議員会(定時評議員会)開催の件
- (4)代表理事及び業務執行理事の自己の職務執行状況報告
- (5)会長規則第 4 号改定の件

第 37 回理事会(臨時理事会:みなし決議)(R1.06.01)

理事 10 名から電磁的方法による全員の同意が得られ、また監事からは異議有る旨の意思表示を得なかつたので、以下提案を承認可決する旨の理事会の決議があったものと

みなされた。

(1)第 18 回評議員会(定時評議員会)開催の件

第 38 回理事会(臨時理事会)(R1.06.06)

経団連会館 5 階 502 会議室に於いて開催し、次の(1)、(2)、(4)項については選定・選任され、(3)項については決議され、(5)項については報告がされた。

(1)代表理事及び業務執行理事選定の決議

(2)会員選任の決議

(3)理事会規程及び会長規則改定の決議

(4)顧問委嘱の件

(5)代表理事及び業務執行理事の自己の職務執行状況報告

第 39 回理事会(臨時理事会:みなし決議)(R1.08.06)

理事の全員から文書による同意する旨の意思表示を得、また監事からは異議有る旨の意思表示を得なかつたので、以下提案を承認可決する旨の理事会の決議があつたものとみなされた。

(1)顧問委嘱の件

(2) IATSS フォーラム部会特別委員再任の件

第 40 回理事会(臨時理事会:みなし決議)(R2.02.27)

理事の全員から文書による同意する旨の意思表示を得、また監事からは異議有る旨の意思表示を得なかつたので、以下提案を承認可決する旨の理事会の決議があつたものとみなされた。

(1)第 19 回評議員会開催の件

(2)第 41回国際交通安全学会賞承認の件

(3)顧問委嘱の件

第 41 回理事会(通常理事会:みなし決議)(R2.03.12)

理事の全員から文書による同意する旨の意思表示を得、また監事からは異議有る旨の意思表示を得なかつたので、以下提案を承認可決する旨の理事会の決議があつたものとみなされた。

(1)令和 2 年度事業計画書及び収支予算書承認の件

(2)顧問委嘱承認の件

(3)会員選任の件

(4)従たる事務所設置の件

(5)重要な使用人選任の件

(6)第 19 回評議員会 決議の省略の件

3)創 50 戦略会議

「創 50 戦略会議」は、平成 27 年 3 月に会長に最終答申された「基本方針」に基づき、中長期的観点から具体的施策を展開するため設置されたものである。令和元年度は下記の事項について審議し承認した。

(1)会議開催実績

第 1 回会議(R1.08.22)

- ・「国際フォーラム実行委員会」の北村友人委員長より、第 5 回国際フォーラム(GIFTS)開催の企画内容について報告があり、これを承認した。
- ・昨年度等会議に置いて討議され、今年度から活動を開始しているプロジェクト“GRATS; Global Research Alliance on Traffic and Safety“(交通・安全における国際研究協調)について、森本章倫 PL よりその進捗状況について報告が行われた。
- ・当学会会員の定年制度の今後のあり方について討議することが提案され、次回以降当会議で検討することになった。

第 2 回会議(R2.01.07)

- ・UNRSC 参加と Asia 版 IRTAD 設立動向の件について事務局より報告がされた。
- ・当学会会員制度の今後のあり方について審議が行われ、次回会議以降も引き続き検討することとなった。

第 3 回会議(R2.03.16)

- ・第 6 回国際フォーラム(GIFTS)開催にむけた「国際フォーラム実行委員会」の活動状況について、北村友人委員長及び事務局より報告がされた。
- ・当学会会員制度の今後のあり方について審議し、来年度に規定等の改定を行うことを承認した。

(2)創 50 戦略会議メンバー(敬称略)

議長 中村 英樹 (IATSS 会員/名古屋大学大学院環境学研究科都市環境学専攻 教授)

副議長 北村 友人 (IATSS 会員/東京大学大学院教育学研究科学校教育高度化専攻 准教授)

大口 敬 (IATSS 会員/東京大学生産技術研究所 教授)

鎌田 聡 (IATSS 専務理事)

金子 裕之 (IATSS 常務理事兼事務局長)

岸井 隆幸 (IATSS 理事/日本大学理工学部土木工学科 特任教授)

篠原 一光 (IATSS 会員/大阪大学大学院人間科学研究科 教授)

武内 和彦 (IATSS 会長/(公財)地球環境戦略研究機関(IGES) 理事長、東京大学 特任教授)

土井 健司 (IATSS 会員/大阪大学大学院工学研究科地球総合工学専攻 教授)

中村 文彦 (IATSS 会員/横浜国立大学 副学長)

森本 章倫 (IATSS 会員/早稲田大学理工学術院創造理工学部社会環境工学科 教授)

吉田 長裕 (IATSS 会員/大阪市立大学大学院工学研究科 准教授)

蓮花 一己 (IATSS 理事/帝塚山大学 学長)

4)企画調整委員会

(1)委員会開催実績

第127回企画調整委員会(R1.08.05)

- ①新会員デビュートークの開催概要について、「人」委員会より報告があり、承認された。
- ②新会員候補選考について、「人」委員会より選考方法の変更提案があり、審議を行った。
書類選考後のプレゼン廃止については承認、年齢制限については一部表現を改めることで承認された。選考枠の考え方については、「人」委員会にてさらに検討したうえで、改めて企画調整委員会で審議することとなった。
- ③連携会員(仮称)制度の導入について、「人」委員会より提案があり、審議を行った。会員制度に関わる事項であるため、慎重な審議が必要と判断され、さらに「人」委員会で提案の精査をしたうえで、改めて企画調整委員会で審議することとなった。
- ④各委員会より本年度の活動計画の報告と情報共有が行われた。
- ⑤GRATSプロジェクトについては、GIFTSのワークショップにて活動紹介と関連討議を行うこと、および年次交流会にて経過報告を行うことが確認された。
- ⑥事務局より、年次交流会の企画概要が提案され、審議を行った。本日の議論をもとにトピック枠の企画を検討することとなった。

第128回企画調整委員会(R1.11.07)

- ①年次交流会のトピック枠の計画について事務局より報告され、審議を行った。座談会については、GRATSプロジェクト交流部会にて検討することとした。
- ②新会員候補選考について、選考枠および採用人数の考え方が「人」委員会より提案され、審議を行った。原案通り承認された。
- ③連携会員(仮称)制度導入について、前回の企画調整委員会の議論に基づいて「人」委員会でさらに検討を行った結果が報告され、審議を行った。大枠のフレームが承認され、詳細部分を「人」委員会にて整理し、次回企画調整委員会にて確認することとなった。

第129回企画調整委員会(R2.01.27)

- ①新会員候補者について、「人」委員会からの提案に基づいて審議を行い、原案通り承認された。
- ②連携会員(仮称)制度の試行内容と進捗について、「人」委員会より報告があり、詳細の確認を行った。名称については、趣旨・内容に適した名称(和英とも)を「人」委員会で検討し、それをもとに改めて企画調整委員会にて審議することとなった。
- ③新会員候補の選考方法について、企画調整委員会での審議が形式的(追認)になっているという懸念が、企画調整委員長より問題提起された。企画調整委員会と「人」委員会の役割分担と関係を明確にする必要があることから、来年度に向けて、事務局にて経緯の確認・再整理を行うこととなった。

(2)企画調整委員会メンバー(敬称略)

委員長 中村 英樹 (IATSS 会員/名古屋大学大学院環境学研究科都市環境学専攻 教授)
大口 敬 (IATSS 会員/東京大学生産技術研究所 教授)
北村 友人 (IATSS 会員/東京大学大学院教育学研究科学校教育高度化専攻 准教授)
篠原 一光 (IATSS 会員/大阪大学大学院人間科学研究科 教授)
土井 健司 (IATSS 会員/大阪大学大学院工学研究科地球総合工学専攻 教授)
中村 文彦 (IATSS 会員/横浜国立大学 副学長)
森本 章倫 (IATSS 会員/早稲田大学理工学術院創造理工学部社会環境工学科 教授)
吉田 長裕 (IATSS 会員/大阪市立大学大学院工学研究科 准教授)

5)「人」委員会

(1)新会員紹介イベントの企画・開催

令和元年度の新会員 2 名を既存の関係者へ紹介し、活動の活性化を図るため、以下のイベントを企画/実施した。

IATSS 新会員デビュートーク概要

開催日 : 令和元年 9 月 25 日(水)
場所 : TKP ガーデンシティーPremium 京橋
内容 : 新会員からのプレゼンおよびグループディスカッション
新会員 : 岡村 和子氏、小早川 悟氏
参加者 : 23 名(新会員 2 名、役員・評議員 4 名、顧問 8 名、既存会員 9 名)

(2)令和元年度 新会員候補者の選考・提示

当委員会での議論の結果、新会員候補を 4 名選考し、企画調整委員会へ提示した。

(3)学際研究者育成プログラム(連携会員(仮称)制度)の試行(新規の試み)

当委員会にて連携会員(仮称)の趣旨、対象者、対象者年齢、選考方法等を企画調整委員会からの指摘も踏まえ十分に議論し、令和 2 年度より試行することになった。(令和元年度年次交流会にて IATSS 関係者に周知)

連携会員(仮称)募集結果、交通計画系 13 名、交通心理学系 5 名、医学系 1 名、経済学系 1 名、計 20 名の候補者の推薦があった。当委員会による選考後、令和 2 年度から試行を開始する。

(4)委員会開催実績

令和元年度第 1 回「人」委員会(R1.05.29)

- ・連携会員(仮称)制度導入について討議された。
- ・新会員選考方針について討議された。
- ・年間スケジュール整合について審議が行われた。

令和元年度第2回「人」委員会(R1.06.24)

- ・新会員デビュートークの企画について審議が行われた。
- ・令和2年度新会員候補絞り込みについて討議され、ショートリスト11名が選考された。
- ・連携会員(仮称)制度について前回に引き続き討議された。

令和元年度「人」委員会調整会(R1.09.25) --出席者が規定数に達しなかった為、調整会となった。

- ・令和2年度新会員候補の採用枠とその理由について討議された。
- ・“連携会員制度”の導入に関する一部見直し案について討議された。

上記討議結果は欠席された委員にメール審議され、合意形成され、企画調整委員会に報告されることとなった。

令和元年度第3回「人」委員会(R1.12.06)

- ・令和2年度新会員候補4名が選考され、企画調整委員会に提示することが決定した。
- ・連携会員(仮称)制度の試行・運用に関して審議された。
- ・会員活性化(新会員を幽霊化させない)に関して討議された。

(5)「人」委員会メンバー(敬称略)

委員長 森本 章倫 (IATSS 会員/早稲田大学理工学術院創造理工学部社会環境工学科 教授)
今井 猛嘉 (IATSS 会員/法政大学法科大学院 教授・弁護士)
上條 俊介 (IATSS 会員/東京大学情報学環 准教授)
木林 和彦 (IATSS 会員/東京女子医科大学医学部法医学講座 教授)
谷川 武 (IATSS 会員/順天堂大学医学部公衆衛生学教室 教授)
土井 健司 (IATSS 会員/大阪大学大学院工学研究科地球総合工学専攻 教授)
中村 彰宏 (IATSS 会員/横浜市立大学大学院国際マネジメント研究科 教授)

6)年次交流会

本年度の事業活動報告とトピックとして GRATS の経過報告及び座談会を行った。

年次交流会概要

開催日： 令和元年 12 月 20 日 15:30～17:55

場所： 経団連会館 4F ダイヤモンドルーム

内容： 1.活動報告会

2.本年度トピック

・GRATS 経過報告

・「交通文化と交通安全対策の国際展開方向性」(座談会)

参加者：役員、評議員、顧問、会員 51 名

3)理事及び監事

(R2.03.31 現在)

役 職〔勤務〕	氏 名(敬称略)	現職〔国家公務員出身者最終官職〕
会 長〔非常勤〕	武内 和彦	(公財)地球環境戦略研究機関(IGES)理事長 東京大学特任教授
副会長〔非常勤〕	竹内 弘平	本田技研工業(株)専務取締役
専務理事〔常勤〕	鎌田 聡	本田技研工業(株)特別職 〔中国管区警察局長〕
常務理事〔常勤〕	金子 裕之	本田技研工業(株)主幹
理 事〔非常勤〕	遠藤 昭雄	〔文部科学省国立教育政策研究所長〕
	鎌原 俊二	(株)たいよう共済代表取締役社長 〔大阪府警察本部長〕
	岸井 隆幸	日本大学理工学部土木工学科特任教授
	深澤 淳志	(一財)日本建設情報総合センター理事長 〔国土交通省道路局長〕
	宮寄 拓郎	(株)NTT データアイ特別参与 〔国土交通省自動車交通局技術安全部長〕
	蓮花 一己	帝塚山大学学長
監 事〔非常勤〕	鈴木 雅文	本田技研工業(株)取締役常勤監査等委員
	平田 久美子	税理士/平田久美子税理士事務所

4)評議員

(R2.03.31 現在)

氏 名(敬称略)

現 職

石附 弘

尾高 和浩

本田技研工業(株)執行役員

栗原 典善

OFFICE NORI 代表

木場 宣行

(一社)日本自動車整備振興会連合会専務理事

野田 健

(一財)全日本交通安全協会理事長

野村 義人

(公財)三井住友海上福祉財団専務理事

林 良嗣

中部大学総合研究所教授

深草 雅利

(公財)交通事故総合分析センター理事長

宮田 年耕

首都高速道路(株)代表取締役社長

5)共催等

(1)共催

- ①12th ATRANS Annual Conference ～Transportation for a Better Life～
開催日：令和元年 8 月 23 日(金)
場所：The Chatrium Hotel Riverside, Bangkok, Thailand
主催：ATTRANS (Asian Transportation Research Society)、(公財)国際交通安全学会

- ②Bryan Porter 教授の講演会
～高齢者の交通安全確保対策の日米比較(自立とモビリティの確保、文化差を踏まえ)～
開催日：令和 2 年 2 月 14 日(金)
場所：ホンダ八重洲ビル 9 階
主催：日本交通心理学会、(公財)国際交通安全学会

(2)協賛

- ①令和元年春の全国交通安全運動
開催日：令和元年 5 月 11 日(土)～20 日(月)
主催：内閣府、警察庁、他 23 機関／団体

- ②令和元年秋の全国交通安全運動
開催日：令和元年 9 月 21 日(土)～30 日(月)
主催：内閣府、警察庁、他 23 機関／団体

- ③令和元年度 交通安全フォーラム 追突事故と高齢者の交通事故防止を考える
～すすめ、安全なミライへ～
開催日：令和元年 10 月 29 日(火)
場所：佐賀勤労者総合福祉センター(メートプラザ佐賀)
主催：内閣府、佐賀県、佐賀市

(3)後援

- ①生活道路のゾーン対策講習会
開催日：令和元年 9 月 2 日(月)
場所：日本大学理工学部 駿河台キャンパス 1 号館 6F CST ホール
主催：一般社団法人 交通工学研究会

- ②ラウンドアバウトサミット in いとまん
開催日：令和元年 11 月 21 日(木)～22 日(金)
場所：沖縄県糸満市西崎町 1-6-1 サザンビーチホテル&リゾート沖縄
主催：ラウンドアバウト普及促進協議会

- ③2019 トラフィック セーフティ・フォーラム in 埼玉
開催日：令和元年 11 月 27 日(水)
場所：埼玉会館 小ホール
主催：交通教育センターレインボー埼玉、交通教育センターレインボー和光

国内外の「交通安全」にかかわる社会貢献事業

I 研究調査事業

1. 平成 30 年度研究調査報告会(H31.04.12)

参加者：役員、評議員、顧問、会員、特別研究員、諸官庁、報道関係及び一般参加者 計 212 名
場所：経団連会館 経団連ホール

報告テーマ：

- 1801C 国際比較:道路交通安全の目標設定と交通文化
—道路交通安全技術・制度・文化に関する国際比較研究—
- 1802C 東南アジアにおける情報共有型交通安全対策スキームの実施支援
- 1806A 児童生徒等に対する効果的な交通安全教育を普及させるために何が必要か
—教育普及スキームの構築研究—
- 1841A 二輪車文化を活かし、安全を基本とした ASEAN 地域の持続可能な交通まちづくり
の提案

2. GRATS

<1901>

創 50 戦略プロジェクト-II

GRATS(Global Research Alliance on Traffic and Safety)

(1) 研究目的と概要

世界の交通事故死傷者数の半減に必要な安全対策を令和元年度から 3 か年かけて見出すことを目的とする特別プロジェクトである。各国の交通社会、交通文化の違いを理解し、それぞれの削減目標を共有することで導く。本プロジェクトは 2016 年から 3 年行われた創 50 プロジェクト I を引き継ぎ、交通安全に関する共通のプラットフォームを、各国との信頼関係を創り、カウンターパートとの信頼関係を深めることで構築することを目標としている。

プロジェクトは全体会議のほか、国際的な比較研究を中心とした研究部会と各国との情報交流を目的とした交流部会の 2 つから構成されている。研究部会では、各国の交通安全意識アンケート調査データや統計データをもとに、各国の交通死亡事故率の相違を分析し、世界横断的な構造要因(インフラ・車両、教育と民族、制度と取締り)などについて研究する。交流部会では情報交流や知識連携についての方法を検討し、各国で共有できる概念構築を目指している。最終年度にはこれらの成果をまとめて、「交通安全対策 5 原則(仮称)の提案」に向けて、国際的ネットワークを充実させながら、先進的な発信を行う。

(2) 研究経過

全体会議

- ・第 1 回全体会議(H31.04.24)
- ・第 2 回全体会議(R1.10.09)

・経過報告会(R1.12.20)

「年次交流会」開催時に活動経過報告会を開催し当学会関係者に報告を行った。

交流部会

・第1回交流部会(R1.07.06)

・第2回交流部会(R1.11.14)

研究部会

・第1回研究会(R1.07.17)

・第2回研究会(R1.10.30)

・第3回研究会(ロンドン大学にて海外メンバーを含めた全体会議)(R1.11.12)

・第4回研究会(R1.12.13)

(3) プロジェクトメンバー

全体会議

PL 森本 章倫	(IATSS 会員/早稲田大学理工学術院創造理工学部社会環境工学科 教授)
中村 英樹	(IATSS 会員/名古屋大学大学院環境学研究科都市環境学専攻 教授)
北村 友人	(IATSS 会員/東京大学大学院教育学研究科学校教育高度化専攻 准教授)
鈴木 弘司	(IATSS 会員/名古屋工業大学社会工学科 准教授)
土井 健司	(IATSS 会員/大阪大学大学院工学研究科地球総合工学専攻 教授)
中村 文彦	(IATSS 会員/横浜国立大学 副学長)
福田 敦	(日本大学理工学部交通システム工学科 教授)
吉田 長裕	(IATSS 会員/大阪市立大学大学院工学研究科 准教授)

特別研究員

岸井 隆幸	(IATSS 理事/日本大学理工学部土木工学科 特任教授)
井上 勇一	(IATSS 顧問/東京都市大学国際部担当部長)
橋本 鋼太郎	(IATSS 顧問/(株)NIPPO 顧問)
長田 哲平	(宇都宮大学地域デザイン科学部 助教)
康 楠	(東京理科大学理工学部 嘱託助教)
北野 尚宏	(早稲田大学理工学術院 教授)
小泉 幸弘	(独立行政法人 国際協力機構 (JICA))
坂野 成俊	(株)富士通総研 行政経営グループ)
塩見 康博	(立命館大学理工学部 准教授)
鈴木 一史	(群馬工業高等専門学校 准教授)
鳥海 梓	(東京大学生産技術研究所 人間・社会系部門 助教)
濱田 禎	(国土交通省道路局道路交通安全対策室 室長)
宮坂 優斗	(内閣府 交通安全企画調査専門職)

交流部会

部会長 森本 章倫	(IATSS 会員/早稲田大学理工学術院創造理工学部社会環境工学科 教授)
中村 文彦	(IATSS 会員/横浜国立大学 副学長)
吉田 長裕	(IATSS 会員/大阪市立大学大学院工学研究科 准教授)

長田 哲平 (宇都宮大学地域デザイン科学部 助教)
北野 尚宏 (早稲田大学理工学術院 教授)
小泉 幸弘 (独立行政法人 国際協力機構 (JICA))
坂野 成俊 (株富士通総研 行政経営グループ)
宮坂 優斗 (内閣府 交通安全企画調査専門職)

研究部会

部会長 中村 英樹(IATSS 会員/名古屋大学大学院環境学研究科都市環境学専攻 教授)

鈴木 弘司 (IATSS 会員/名古屋工業大学社会工学科 准教授)

特別研究員

井上 勇一 (IATSS 顧問/東京都市大学国際部 担当部長)

橋本 鋼太郎 (IATSS 顧問/(株) NIPPO 顧問)

康 楠 (東京理科大学理工学部 嘱託助教)

鳥海 梓 (東京大学生産技術研究所人間・社会系部門 助教)

塩見 康博 (立命館大学理工学部 准教授)

鈴木 一史 (群馬工業高等専門学校 准教授)

Abu-Lebdeh, Ghassan (Professor, American University of Sharjah, UAE)

Ahmed, Shawky Mohamed (Associate Professor, Ain Shams University, Egypt)

Alhajyaseen, Wael K.M. (Assistant Professor, Qatar University, Qatar)

Christie, Nicola (Professor, University College London, UK)

Lorenzo, Mussone (Associate Professor, Politecnico di Milano, Italy)

Tang, Keshuang (Professor, Tongji University, China)

Van den Berghe, Wouter (Director, Vias institute, Belgium)

Wolfemann, Axel (Professor, Hochschule Darmstadt, University of Applied Sciences, Germany)

3. 令和元年度研究調査プロジェクト

令和元年度は、次の 10 件の研究調査プロジェクト等を実施した。

《自主研究》

- 1902A 広場・歩行空間における群衆行動の観測とその制御による安全性向上に関する研究
- 1904B 都市の文化的創造的機能を支える公共交通の役割
- 1905B 自動運転の時代と交通体系:人間、AI、交通社会
- 1906B 児童生徒等に対する効果的な交通安全教育を普及させるために何が必要か
～教育普及スキームの構築研究～
- 1907C 健康起因事故防止のための実証的研究と防止対策の普及啓発に関する研究

《社会貢献》

- 1920 東南アジアのモデル地区における情報共有型交通安全対策スキームの社会実装

《国際連携》

- 1940C インド小規模都市群における地域に根ざした計画・デザインの提言と社会実装の取り組み
～持続可能な開発目標(SDGs)への貢献を視野に～
- 1941B 二輪車文化を活かし、安全を基本とした ASEAN 地域の持続可能な交通まちづくりの提案
～タイの交通死亡事故多発都市を中心に～

《海外調査》

- 1930 諸外国における交通関連施策の計画及び実施状況と関連情報調査

《国際発表》

- 1970 1807B「健康起因防止のための実証的研究と防止対策の普及啓発に関する研究」

<1902A>

広場・歩行空間における群衆行動の観測とその制御による 安全性向上に関する研究

(1) 研究目的と概要

本プロジェクトは、人口密度が高く狭隘道路の多いアジア的大都市において問題となりつつある、広場・歩道空間の歩行者群集による混雑に起因した現象を対象としたものである。大規模イベント開催地周辺また公共交通結節点(鉄道駅等)周辺の道路では、混雑が多発する。これら混雑は、歩行者の安全・快適、周辺交通への影響、犯罪発生などに関わる一方で、モバイル通信の発達やこれに基づいた群衆状態の把握・誘導、さらにはこれらに基づいた空間設計に関する知見はあまり得られていない。1年目に実施した関連研究レビュー、事例収集により、世界における歩行者系空間・広場整備の潮流、モバイルデータの精度、群集把握事例、国内渋谷ハロウィン、神戸ルミナリエでの観測調査とモバイルデータとの比較、警視庁へのヒアリング、群衆と犯罪の関連性、について関連情報を整理することができた。今後は、より詳細な分析及び群集状態の管理・制御方策について、実行可能な新たな知見を提供したい。

(2) 研究経過

- ・第1回研究会(R1.06.05)

- ・第2回研究会(R1.10.18)

- ・渋谷ハロウィン交通調査(R1.10.30-31)

 - 東京都 渋谷駅前のハロウィン時の群衆密度、群衆の中の人の速度測定

- ・神戸ルミナリエ交通調査(R1.12.14)

 - 神戸市 元町駅前のルミナリエイベント時の群衆密度、群衆の中の人の速度測定

- ・第3回研究会(R2.01.24)

- ・警視庁へのヒアリング(R2.02.12)

 - 東京都渋谷駅前のハロウィン時の警備について警視庁へのヒアリング

- ・第4回研究会(R2.02.18)

(3) プロジェクトメンバー(敬称略)

- PL 吉田 長裕 (IATSS 会員/大阪市立大学大学院工学研究科 准教授)
上條 俊介 (IATSS 会員/東京大学情報学環 准教授)
北村 友人 (IATSS 会員/東京大学大学院教育学研究科学校教育高度化専攻 准教授)
小竹 元基 (IATSS 会員/東京大学大学院新領域創成科学研究科 准教授)
中村 彰宏 (IATSS 会員/横浜市立大学大学院国際マネジメント研究科 教授)
平岡 敏洋 (IATSS 会員/東京大学生産技術研究所 特任教授)

特別研究員

- 瀧澤 重志 (大阪市立大学生活科学研究科 教授)
藤山 拓 (University College London Associate Professor)
山口 敬太 (京都大学大学院工学研究科社会基盤工学専攻 准教授)
椎名 啓雄 (警視庁交通部交通規制課 副参事)
海老澤 綾一 (警視庁交通部交通規制課 主査)

オブザーバー

- 石附 弘 (IATSS 評議員)

<1904B>

都市の文化的創造的機能を支える公共交通の役割

(1) 研究目的と概要

本研究は平成 30 年度より開始したもので、最終的に、持続可能かつ創造的な未来の都市で、文化的かつ創造的な機能・活動の集積の重要性を踏まえ、それを支える公共交通の役割を明らかにし、提言をめざすものである。2 年目の今年度は、余暇活動意識調査、元ニューヨーク市交通局長の招聘とセミナーの開催、ニューヨーク、ロンドン、ウィーンへの現地調査、東京と富山での調査準備を実施した。

海外専門家招聘および海外現地調査から、都市空間構成、公共交通にかかる街路や広場空間、公共交通施設とサービスの工夫例を学んだ。余暇活動意識調査から、活動意義、行動連携、受けとめる空間の必要性等を確認した。地図作業と研究会での討議から、公共交通のサービスやシステム、インフラの課題とともに、余暇活動への高揚や余韻を受け止めるバッファ機能として、活動場所と連携する街路や広場を含めた空間の意義と、その空間と公共交通の連携の意義を確認した。

(2) 研究経過

・プレ研究会(R1.05.22)

J.サディクカーン氏(元ニューヨーク市交通局長)へのヒアリング

・シンポジウム開催(R1.05.24)

テーマ: 芸術文化都市を支える街路空間と都市交通ーニューヨーク市交通局による都市再生から学ぶー(会場: 東京大学情報学環・福武ホール、共催: 東京大学都市デザイン研究室)

・第 1 回研究会(R1.06.06)

・第 2 回研究会(R1.08.21)

・第 3 回研究会(R1.10.31)

・ニューヨーク調査(R1.12.09)

J.サディクカーン氏への追加ヒアリング

・ウィーンおよびロンドン調査(R2.01.10-13)

ウィーン市交通局へのヒアリング、ウェストエンド地区(ロンドン)の歩行者空間等実態調査

・富山調査(R2.01.22)

中川大氏(富山大学教授)および富山市役所中心市街地振興課へのヒアリング

・第 4 回研究会(R2.01.07)

(3) プロジェクトメンバー(敬称略)

PL 中村 文彦 (IATSS 会員/横浜国立大学 副学長)

斎藤 誠 (IATSS 会員/東京大学大学院法学政治学研究科 教授)

土井 健司 (IATSS 会員/大阪大学大学院工学研究科地球総合工学専攻 教授)

藤井 聡 (IATSS 会員/京都大学大学院都市社会工学専攻 教授)

吉田 長裕 (IATSS 会員/大阪市立大学大学院工学研究科 准教授)

特別研究員

白石 真澄 (IATSS 顧問/関西大学政策創造学部 教授)

橋本 鋼太郎 (IATSS 顧問/(株) NIPPO 顧問)

松村 みち子 (IATSS 顧問/タウンクリエイター 代表)

生島 翔 ((株)生島企画室)

川端 祐一郎 (京都大学大学院工学研究科都市社会工学専攻 助教)

出口 敦 (東京大学大学院新領域創成科学研究科 教授)

中野 卓 ((国研)建築研究所住宅・都市研究グループ 研究員)

馬奈木 俊介 (九州大学大学院工学研究院都市システム工学講座 主幹教授/都市研究センター長)

三浦 詩乃 (横浜国立大学大学院都市イノベーション研究院 助教)

吉見 俊哉 (東京大学大学院情報学環 教授)

<1905B>

自動運転の時代と交通体系:人間、AI、交通社会

(1) 研究目的と概要

自動運転のレベル3での走行を認める国内法が整備された。レベル3では、①運転者は、ハンド・オフが一定の条件で認められ、②その条件が満たされなくなれば、ハンド・オンに戻ることとされている。①が認められるのは、人間の介入なしに自動運転が実現される場合、即ち、車両が ODD(運行設計領域)を走行する場合である。そこで、①ではレベル4以上の、②ではレベル2以下の運転が実現されていることになる。今後は、レベル4での公道走行の実用化が目指されている。レベル3, 4に共通する課題は、(1)ODD 概念の精緻化、(2)ハンド・オフの場合の運転者の確定(その場合に事故が生じた場合の責任内容と所在の確認)である。そこで本研究では、(1)、(2)の検討を、国際的理解と、日本各地でのレベル3, 4の実験で得られた知見の共有の下、自動運転に関わる様々な学問領域からの視点を統合しつつ検討した。残された課題は、(i)運転者概念の明確化、(ii)その前提としての ODD 概念の確定、(iii)自動運転車に即した交通規制と免許制度の提案である。

(2) 研究経過

- ・第1回研究会(R1.06.07)
- ・第2回研究会(R1.09.02)
- ・第3回研究会(R1.10.04)
- ・第4回研究会(R1.11.18)
- ・ITS World (Singapore)にて、今井 PL が講演(R1.10.23)
- ・「自動運転の時代と交通体系を国際的視点から考える (人間、AI、交通社会のあり方を巡る、英国、ドイツ、日本での取り組み)」をテーマに、シンポジウムを開催(R2.02.25)
講演者:Ms Jessica Ugucioni (UK Law Commission)、Dr. Mirja Feldmann(Germany, Judge)
清水和夫(国際モータージャーナリスト)
- パネルディスカッション:進行 今井猛嘉(1905B PL)、Ms Jessica Ugucioni、Dr. Mirja Feldmann、佐藤昌之(ITS Japan)、ルブルトン カロリーヌ(法政大学)

(3) プロジェクトメンバー(敬称略)

- PL 今井 猛嘉 (IATSS 会員/法政大学法科大学院 教授・弁護士)
岩貞 るみこ (IATSS 会員/モータージャーナリスト)
大口 敬 (IATSS 会員/東京大学生産技術研究所 教授)
太田 和博 (IATSS 会員/専修大学商学部 教授)
上條 俊介 (IATSS 会員/東京大学情報学環 准教授)
木林 和彦 (IATSS 会員/東京女子医科大学医学部法医学講座 教授・講座主任)
篠原 一光 (IATSS 会員/大阪大学大学院人間科学研究科 教授)
菅沼 直樹 (IATSS 会員/金沢大学新学術創成研究機構未来社会創造コア 教授)
杉本 洋一 (IATSS 会員/(株)本田技術研究所 先進技術研究所 上席研究員)
鈴木 弘司 (IATSS 会員/名古屋工業大学社会工学科 准教授)
田久保 宣晃 (IATSS 会員/科学警察研究所交通科学部 部長)
土井 健司 (IATSS 会員/大阪大学大学院工学研究科地球総合工学専攻 教授)
中尾田 隆 (IATSS 会員/池袋南法律事務所 弁護士)
中村 彰宏 (IATSS 会員/横浜市立大学大学院国際マネジメント研究科 教授)
平岡 敏洋 (IATSS 会員/東京大学生産技術研究所 特任教授)
福田 敦 (IATSS 会員/日本大学理工学部交通システム工学科 教授)
森本 章倫 (IATSS 会員/早稲田大学理工学術院創造理工学部社会環境工学科 教授)

特別研究員

- 宮寄 拓郎 (IATSS 理事/NTTデータアイ 特別参与)
赤羽 弘和 (IATSS 顧問/千葉工業大学創造工学部都市環境工学科 教授)
久保田 尚 (IATSS 顧問/埼玉大学大学院理工学研究科環境科学・社会基盤部門 教授)
鶴賀 孝廣 (IATSS 顧問)
長谷川 孝明 (IATSS 顧問/埼玉大学大学院理工学研究科 教授)
松村 良之 (IATSS 顧問/北海道大学 名誉教授)
矢野 雅文 (IATSS 顧問/東北大学 名誉教授)
横山 利夫 (IATSS 顧問/(株)本田技術研究所 オートモービルセンター 上席研究員)
佐藤 昌之 (ITS Japan)
清水 和夫 (国際モータージャーナリスト)
三浦 清洋 (公益社団法人 日本交通計画協会企画室)
新倉 聡 (公益財団法人 日本道路交通情報センター 専門役)
宮木 由貴子 (株式会社 第一生命経済研究所 主席研究員)
池田 大介 (東雲総合法律事務所 弁護士)
若月 将史 (第一東京弁護士会 弁護士)

ルブルトン カロリーヌ(法政大学大学院法学研究科 博士後期課程)

オブザーバー

- 石附 弘 (IATSS 評議員)
杉 俊弘 (警察庁交通局交通企画課自動運転企画室 室長)
植木 健司 (経済産業省自動車課 ITS・自動走行推進室 室長)
間瀬 智哉 (経済産業省製造産業局自動車課 ITS 自動走行推進室)
諸隈 繁浩 (内閣官房日本経済再生総合事務局 参事官補佐)

<1906B>

児童生徒等に対する効果的な交通安全教育を普及させるために何が必要か ～教育普及スキームの構築研究～

(1) 研究目的と概要

本研究の目的は、児童生徒等に対する発達段階に応じた効果的な交通安全教育を普及させるための要件を明確にして、教育普及のためのスキームを構築することである。2019年度の研究調査から示唆されたことは、児童生徒等の主体的な活動を基盤にした教育活動は、安全教育に対する積極的な学習意欲を引き出すということである。具体的には、上級生が下級生を指導するという教育活動(中学校)、生徒会が中心となって実施した交通安全シンポジウム(高等学校)であった。いずれも、自己の安全だけでなく他者や社会の安全を考える機会が提供されており、そのことが生徒の積極的な参加を引き出したものと解釈している。教育普及を図るには、社会性の発達など子どもたちが自らを成長させていく姿をキャリア発達の観点から可視化する必要がある、自ら学び考える教育への転換が求められている現在の学校教育と、本プロジェクトの研究成果を有機的に融合させることで、教育普及という社会実装を今後の課題として実現していきたい。

(2) 研究経過

- ・第1回サブチーム打合せ(H31.04.02)
- ・第2回サブチーム打合せ(H31.04.09)
- ・亘理中学校自転車安全運転教育(W/S)(H31.04.17、H31.04.24)
- ・第1回研究会(R1.05.07)
調査活動の概略共有、役割分担について議論
- ・第3回サブチーム打合せ(R1.05.07)
- ・第4回サブチーム打合せ(R1.07.25)
- ・第2回研究会(R1.07.25)
盛岡工業高校 安全教育について
8月5日のみやぎ高校生サイクルサミットについて
酒田第3中学校自転車教育実践共有化
- ・第3回研究会(R1.11.22)
盛岡工業高校「交通安全シンポジウム」(11月27日)について議論
8月5日「みやぎ高校生サイクルサミット」の報告共有化
自転車確認行動のビデオ解析(亘理中)の経過報告(鈴木先生研究室)
- ・第4回研究会(R2.02.10)
盛岡工業高校の取組について共有化
酒田三中の調査結果について共有化
内報の準備について議論
ドイツ研究交流について共有化
- ・酒田第3中学校 自転車安全運転教育実践(R1.05.24、R1.06.10)
- ・酒田第3中学校 自転車安全運転教育実践フォローアップ(R1.10.24、R1.10.25)
- ・宮城高校生サイクルサミット(R1.08.05)

- ・盛岡工業高校 サブチーム(R1.07.17、08.28、09.04、10.02、10.16、11.05、06、R2.01.02、02.05)
- ・盛岡工業高校 交通安全教育(R1.11.27)

プロジェクトメンバー(敬称略)

- PL 小川 和久 (IATSS 会員/東北工業大学教職課程センター 教授)
 北村 友人 (IATSS 会員/東京大学大学院教育学研究科学校教育高度化専攻 准教授)
 鈴木 弘司 (IATSS 会員/名古屋工業大学社会工学科 准教授)
 岡村 和子 (IATSS 会員/科学警察研究所 交通科学部 交通科学第二研究室 室長)

特別研究員

- 奥山 祐輔 (黒井産業(株) R45・日の出自動車学校 次長 兼 R45・日の出交通教育センター センター長)
 加藤 麻樹 (早稲田大学人間科学学術院 准教授)
 神田 直弥 (東北公益文科大学公益学部 公益学部長)
 菊池 輝 (東北工業大学都市マネジメント学科 教授)
 中井 宏 (大阪大学大学院人間科学研究科 准教授)
 名古屋 武一 ((株)ムジコ・クリエイト 交通安全事業本部 開発推進部 部長)
 平田 大輔 ((株)ムジコ・クリエイト 交通安全事業本部 開発推進部 シニアアドバイザー)
 森本 晋也 (文部科学省 総合教育政策局 男女共同参画共生社会学習・安全課 安全教育調査官)
 松村みちこ (IATSS 顧問 タウンクリエイター)
 吉門 直子 (高知県教育委員会事務局 学校安全対策課 企画監)

研究協力者

- 足立 国大 (名古屋工業大学大学院 工学研究科 社会工学専攻 博士前期課程 1年)
 荻谷 英祐 (名古屋工業大学大学院 工学研究科 社会工学専攻 博士前期課程 1年)
 中原 かゆき (東京大学 公共政策大学院 修士課程)

<1907C>

健康起因事故防止のための実証的研究と防止対策の普及啓発に関する研究

(1) 研究目的と概要

健康障害が事故の原因である重大な交通事故の増加を受けて、国土交通省は健康起因事故対策検討委員会を設置する等、健康起因事故防止は、交通事故対策の重要な課題として認識されてきた。本プロジェクトでは、職業運転者を対象に、これまで系統的な対策が遅れていた視野スクリーニング検査ならびに花粉症に関連する眠気や睡眠時無呼吸症候群(SAS)の問診を実施することで、これらの健康障害に対する対策法の確立と普及啓発を目的とした。平成 30 年度では、約 2,000 人の職業運転者を対象に、視野欠損の簡易スクリーニングツールであるクロックチャートならびに花粉症に関連する眠気や SAS に関する質問票を用いて調査を実施し、クロックチャートの有所見者に対して受診勧奨を促した。令和元年度では、平成 30 年度調査で見出した有所見者約 300 名に対して、眼科への受診勧奨ならびにその診断結果の照会により、職業運転者における視野欠損の有病率を明らかにするための詳細な追跡調査を実施した。また、本調査結果に基づき、国内の運輸業等の事業者を対象に、視野欠損ならびに SAS の早期発見・早期治療に関するシンポジウムを開催し、普及啓発活動を行った。

(2) 研究経過

- ・第 1 回研究会(H31.04.26)
「昨年度までの振り返り」、「今年度の計画について」及び「シンポジウムについて」について議論された。
- ・第 2 回研究会(R1.08.30)
「谷川先生 UK 出張ご報告(Crabb 先生からのコメント等)」、「受診状況調査進捗報告」及び「国松先生、Crabb 先生の論文概要」について担当者から報告、議論された。
- ・クロックチャート検査追跡調査(受診状況調査進捗報告)(R1.05～R1.12)
研究に協力していただいた K 社と N 社に昨年度のクロックチャート検査で有所見となった人への眼科受診促進と受診結果調査を継続的にお願いし、データ収集した。
- ・第 3 回研究会(R2.01.09)
「松山シンポジウムの報告」、「受診状況調査進捗報告」、「David Crabb 教授招聘講演について」及び「今後の予定」について報告、議論された。
- ・研究成果発信についての第 1 回打合せ(ホンダ八重洲ビル)(R2.02.03)
順天堂大学の Myo Nyein Aung 特任准教授と、タイ王国内での本研究成果発信に関して意見交換を行い、展開方針を合意した。
- ・研究成果発信についての第 2 回打合せ(Web 会議)(R2.02.18)
中国 安徽三联事故予防研究所所長 金会庆 教授と中国での本研究成果発信に関して意見交換を行い、展開方針を合意した。

(3) その他の活動

- ・『健康起因事故の予防と対策』と題し、“交通安全 市民シンポジウム”が開催された(R1.12.10)
講演者: 谷川武(順天堂大学 教授、1907C PL)、国松志保(西葛西・井上眼科病院 副院長)、岡村和子(IATSS 会員/科学警察研究所 交通科学部 交通科学第二研究室 室長)、浅野水辺(愛媛大学 教授)、石田勝利(国土交通省課長)
場所: 愛媛県松山市 愛媛県医師会館

参加者数:81名

- ・『健康起因事故の予防と対策』～視野障害と交通事故～ と題した特別講演会が実施された。

(R2.02.19)

特別講演者:David Crabb 教授(ロンドン大学シティー校)、講演者:国松志保(西葛西・井上眼科病院 副院長)、友岡清秀(順天堂大学 助教)

場所:順天堂大学センチュリータワー

参加者数:74名

(4)プロジェクトメンバー(敬称略)

- PL 谷川 武 (IATSS 会員/順天堂大学医学部公衆衛生学教室 教授)
大口 敬 (IATSS 会員/東京大学生産技術研究所 教授)
太田 和博 (IATSS 会員/専修大学商学部 教授)
岡村 和子 (IATSS 会員/科学警察研究所 交通科学部 交通科学第二研究室 室長)
小竹 元基 (IATSS 会員/東京大学大学院新領域創成科学研究科 准教授)
高橋 正也 (IATSS 会員/(独)労働者健康安全機構 労働安全衛生総合研究所
過労死等防止調査研究センター センター長)

特別研究員

- 浅野 水辺 (愛媛大学大学院医学系研究科法医学講座 教授)
木村 真奈美 (順天堂大学大学院医学研究科公衆衛生学講座 博士課程)
国松 志保 (医療法人社団済安堂 西葛西・井上眼科病院 副院長)
佐藤 准子 (順天堂大学医学部公衆衛生学講座 助教)
白濱 龍太郎 (順天堂大学医学部公衆衛生学講座 非常勤講師)
朱 沁擘 (順天堂大学大学院医学研究科公衆衛生学講座 修士課程)
千葉 伸太郎 (東京慈恵会医科大学医学部 講師)
友岡 清秀 (順天堂大学医学部公衆衛生学講座 助教)
ミヨー ニエン アンク (順天堂大学 健康総合科学先端研究機構 特任准教授)
和田 裕雄 (順天堂大学大学院医学研究科公衆衛生学講座 前任准教授)

研究協力者

- 今井 雄也 (順天堂大学大学院医学研究科公衆衛生学講座 博士課程)
大貫 慧介 (順天堂大学大学院医学研究科公衆衛生学講座 博士課程)
崎山 紀子 (東京医療保健大学看護学部 助教)
鈴木 洋平 (順天堂大学大学院医学研究科公衆衛生学講座 博士課程)
嶽山 英佑 (順天堂大学大学院医学研究科公衆衛生学講座 博士課程)
田島 朋知 (順天堂大学大学院医学研究科公衆衛生学講座 博士課程)
田中 恵子 (順天堂大学大学院医学研究科公衆衛生学講座 修士課程)
趙 暁旭 (順天堂大学大学院医学研究科公衆衛生学講座 修士課程)
三好 規子 (愛媛県産業保健サービス株式会社 代表取締役)
村上 歩 (順天堂大学大学院医学研究科公衆衛生学講座 博士課程)
山戸 健太郎 (順天堂大学大学院医学研究科公衆衛生学講座 博士課程)

オブザーバー

- 角 和晃 (警察庁交通局 運転免許課 講習係長)
竹内 康二 (警察庁交通局交通企画課 法令係)
堀井 達也 (警察庁交通局運転免許課 課長補佐)
山崎 大 (国土交通省自動車局安全政策課安全監理室 課長補佐)

<1920>

東南アジアのモデル地区における 情報共有型交通安全対策スキームの社会実装

(1) 研究目的と概要

本プロジェクトは、過去 3 年間、鎌ヶ谷市で成功した情報共有型交通安全対策スキームがマレーシアのペナンとタイのspanブリ、コンケン地区での交通安全対策の立案に、柔軟に対応でき、有効であることを確認した結果を受けて、このスキームを自律的に実施できる体制整備をさらに支援し、持続的かつ広域的な社会貢献に結びつけることを目的として実施した。マレーシアのペナンでは、これまで収集したヒヤリハットデータの解析を通じて具体的に安全対策を立案する方法を、マレーシア科学大学 USM のコンサルティング部門に示し、行政機関と連動して安全対策を推進する方法を提案した。タイのspanブリでは、ヒヤリハットの情報をより詳細に得られるよう ATRANS と協力して報告アプリの改善を行うと同時に、情報を現地のステークホルダーと共有して安全対策を立案する方法を示し、この方法を他地域へも広げるために道路交通安全ガイドラインとしてまとめた。

(2) 研究経過

- ・第 1 回研究会(R1.05.09)
- ・マレーシアサブチームペナン出張:USM 及びペナン市との会合(R1.05.23-24)
- ・タイサブチームspanブリ出張:ステークホルダーとの会合、事故多発箇所及び対策実施箇所視察(R1.08.26-27)
- ・第 2 回研究会(R1.11.19)
- ・第 3 回研究会(R2.02.20)

(3) プロジェクトメンバー(敬称略)

PL 福田 敦 (IATSS 会員/日本大学理工学部交通システム工学科 教授) タイチームリーダー
大口 敬 (IATSS 会員/東京大学生産技術研究所 教授)
小川 和久 (IATSS 会員/東北工業大学教職課程センター 教授)
小早川 悟 (IATSS 会員/日本大学理工学部交通システム工学科 教授)
中村 彰宏 (IATSS 会員/横浜市立大学大学院国際マネジメント研究科 教授)
中村 文彦 (IATSS 会員/横浜国立大学 副学長)

特別研究員

赤羽 弘和 (IATSS 顧問/千葉工業大学創造工学部都市環境工学科 教授) マレーシアチームリーダー
高田 邦道 (IATSS 顧問/日本大学 名誉教授)
松村 みち子 (IATSS 顧問/タウンクリエイター 代表)
秋山 尚夫 (LLP.交通運用研究所 代表)
大野 優治 (LLP.交通運用研究所 技術顧問)
奥山 祐輔 (黒井産業(株) R45・日の出自動車学校 次長 兼 R45・日の出交通教育センター センター長)
親松 俊彦 (株)開発技術コンサルタント 技術顧問)
菊池 浩紀 (日本大学理工学部 助手)
田沢 誠也 (首都高速道路(株) 技術コンサルティング部 部長)
田中 顕士郎 (合同会社ふれあいライフ 代表社員 社長)
南部 繁樹 (株)トラフィックプラス 代表取締役社長)
西田 泰 ((公財)交通事故総合分析センター研究部 特別研究員 兼 研究第一課長)
Addnan Bin Mohd Razali (City Secretary, City Council of Penang Island, Malaysia)
Ahmad Farhan Bin Mohd Sadullah (Professor, Universiti Sains Malaysia, Malaysia)
Kattanaporn Kasemsri (Lecturer, Suranaree University of Technology, Thailand)
Khairur Rahim Bin Ahmad Hilme (Universiti Sains Malaysia, Malaysia)
Mustaqin Bin Alpi (Penang State Secretary Office, Malaysia)
Nabilah Naharudin (Universiti Telnologi MARA, Malaysia)
Paramet Luathep (Assistant Professor, Lecturer, Prince of Songkla University, Thailand)
Rajendran A/L P.Anthony (Director of Engineering Department, City Council of Penang Island, Malaysia)
Shahrel Azmin Suandi (Associate Professor, Universiti Sains Malaysia, Malaysia)
Thaned Sathienam (Assistant Professor, Khon Kaen University, Thailand)
Yong Woo Soon (Engineering Department, City Council of Penang Island, Malaysia)
Zainuddin Bin Mohammad Shariff (Engineering Department, City Council of Penang Island, Malaysia)

オブザーバー

上野 帆乃夏 (国土交通省 総合政策局 国際政策課 係員)
内野 泰明 (国土交通省 総合政策局 国際政策課 インフラシステム海外展開戦略室 室長)
完山 洋平 ((独)国際協力機構 社会基盤・平和構築部 計画・調整課
兼 交通運輸・情報通信グループ第一チーム)
小園 智寛 ((独)国際協力機構 社会基盤・平和構築部 運輸交通グループ 第一チーム)
島野 徹 (国土交通省 総合政策局 国際政策課 主査)
中村 謙太郎 (国土交通省 総合政策局 国際政策課 国際協力官)
福田 トウエンチャイ (ATRANS 事務局長・日本大学理工学部 研究員)
吉岡 七輝 ((独)国際協力機構 社会基盤・平和構築部 運輸交通・情報通信グループ 第一チーム)

<1940C 国際連携>

インド小規模都市群における地域に根ざした計画・デザインの提言と 社会実装の取り組み ～持続可能な開発目標(SDGs)への貢献を視野に～

(1) 研究目的と概要

本プロジェクトは、インド小規模都市群において SDGs の視点から交通安全、公共交通、大気環境などの現状と課題を把握し、インド工科大学のコミュニティに根差した取り組みと当学会の領域横断的な知見をフル活用することで、具体的なアクションを展開する方法を提案し、実施することを目的としており、本年度はその 3 年目である。これまでは、代表的な小都市として選定したパティアラ、ブランドシャール、ナイニタールの 3 都市において、選定した SDGs ターゲットの達成状況と、改善するための具体的な方法を街路デザインガイドライン案として取りまとめた。本年は、各都市で提案したガイドラインを完成させるとともに、都市計画マスタープランと SDGs ターゲット達成のためのロードマップを作成し、さらに現地行政と連携して SDGs ターゲットの達成を目指す実際の取り組みに繋げるために、関係者を集めたワークショップを実施し、具体的なニーズや課題、解決策を明らかにした。

(2) 研究経過

- ・第 1 回研究会(R1.06.14)
- ・出張前打ち合わせ(R1.07.18)
- ・第 2 回研究会@IITD(R1.09.03)
- ・ブランドシャール市視察/ワークショップ参加(R1.09.04)
- ・第 3 回研究会(R1.11.13)
- ・ナショナルワークショップ@デリー参加(R2.02.07-08)
- ・第 4 回研究会@デリー(R2.02.08)

(3) プロジェクトメンバー(敬称略)

PL 福田 敦 (IATSS 会員/日本大学理工学部交通システム工学科 教授)

上條 俊介 (IATSS 会員/東京大学情報学環 准教授)

北村 友人 (IATSS 会員/東京大学大学院教育学研究科学校教育高度化専攻 准教授)

小早川 悟 (IATSS 会員/日本大学理工学部交通システム工学科 教授)

土井 健司 (IATSS 会員/大阪大学大学院工学研究科地球総合工学専攻 教授)

吉田 長裕 (IATSS 会員/大阪市立大学大学院工学研究科 准教授)

特別研究員

菊池 浩紀 (日本大学理工学部交通システム工学科 助手)

Dinesh Mohan (Guest Professor, IITD/Distinguished Professor, Shiv Nadar University,
Jawaharlal Nehru University, India)

Geetam Tiwari (MoUD Chair Professor, IITD)

Girish Agrawal (Professor, Jindal Global University)

Sudipto Mukherjee (Volvo Chair Professor, IITD)

<1941B 国際連携>

二輪車文化を活かし、安全を基本とした ASEAN 地域の持続可能な交通まちづくりの提案 ～タイの交通死亡事故多発都市を中心に～

(1) 研究目的と概要

プロジェクトの2年目にあたる本年度は、タイに加えベトナムを対象として、自動二輪の交通事故実態および交通安全教育の実施状況の把握を行った。両国では交通事故に関する統計の整備が十分でなく、自動二輪に関する事故実態の把握が困難であることを再確認した。他方、最大の自動二輪マーケットシェアを占める Honda(A.P.Honda および Honda Vietnam)が中心となりクロスセクター連携による交通安全教育/普及活動を実施していること、および取り組みの事故削減への貢献を確認した。特に、タイの A.P.Honda は販売店と協力した教育、啓発活動の全国的な展開、および運転技能、危険予測能力等の多様なプログラムの開発を行ったこと、また Honda Vietnam は多様な政府機関の支援のもと若者・こどもを中心とした交通安全教育を全国的に実施し、交通事故の減少に貢献したことを確認した。加えて、令和2年度に実施予定のビデオモニタリングの実施体制の構築を進め、現地協力者と自動二輪の事故リスクが高いと考えられる調査対象地点の選定を行った。

(2) 研究経過

- ・第1回研究会(R1.05.31)
- ・安全運転普及本部訪問(R1.08.06)
- ・ASHとのTV会議(R1.08.26)
- ・第2回研究会(R1.11.12)
- ・APホンダ(タイ)、ホンダベトナムヒアリング(R1.12.16-19)
- ・第3回研究会(R2.02.03)
- ・ビデオ撮影打合せ(R2.03.06)

(3) プロジェクトメンバー(敬称略)

- PL 土井 健司 (IATSS 会員/大阪大学大学院工学研究科地球総合工学専攻 教授)
上條 俊介 (IATSS 会員/東京大学情報学環 准教授)
北村 友人 (IATSS 会員/東京大学大学院教育学研究科学校教育高度化専攻 准教授)
関根 太郎 (IATSS 会員/日本大学理工学部機械工学科 教授)
高橋 正也 (IATSS 会員/(独)労働者健康安全機構 労働安全衛生総合研究所
過労死等防止調査研究センター センター長)
福田 敦 (IATSS 会員/日本大学理工学部交通システム工学科 教授)
吉田 長裕 (IATSS 会員/大阪市立大学大学院工学研究科 准教授)

特別研究員

- 井上 勇一 (IATSS 顧問/東京都市大学国際部 担当部長)
太田 勝敏 (IATSS 顧問/東京大学 名誉教授)
長谷川 孝明 (IATSS 顧問/埼玉大学大学院理工学研究科 教授)
猪井 博登 (富山大学都市デザイン学部都市・交通デザイン学科 准教授)
紀伊 雅敦 (香川大学創造工学部 教授)
山口 直範 (大阪国際大学人間科学部人間健康科学科 教授)
葉 健人 (大阪大学大学院 博士後期課程)
Hsin-Li Chang (Professor, Department of Transportation and Logistics Management,
National Chiao Tung University, Taiwan)
Nocolas Saunier (Full Professor, Polytechnique Montreal, Canada)
Sippakorn Khaimook(大阪大学大学院 博士後期課程)
Yi-Shih Chung (Assistant Professor, Department of Transportation and Logistics Management,
National Chiao Tung University, Taiwan)
Yu-Chin Chiou (Professor, Department of Transportation and Logistics Management,
National Chiao Tung University, Taiwan)

オブザーバー

- 飯田 剛 (本田技研工業㈱安全運転普及本部渉外管理課 主任)
太田 洋平 (本田技研工業㈱安全運転普及本部開発普及課海外 Gr)

<1930 海外調査>

諸外国における交通関連施策の計画及び実施状況と関連情報調査

(1) 研究目的と概要

目的： IATSS 研究調査活動への最新基礎情報の提供と若手研究員の発掘と育成

概要： 学際性を担保するための行政からの研究テーマ提案を踏まえ、若手研究員により調査テーマを設定する

①本年度現地調査に向けた調査チーム編成と企画確認

- ・調査テーマについて異なる視点を持った若手研究員をペアとする事で、異なる視点での調査となるようチーム編成を実施

A チーム: 諸外国における海外旅行者および移民による交通事故の特徴

長田 哲平(宇都宮大学)、高田 実宗(駒沢大学)

B チーム: 欧州諸国における地域特性に応じた救急搬送及び救急医療の提供体制

—仏独瑞英を素材に—

福島 史人(自治医科大学)、折橋 洋介(広島大学)

- ・現地調査の際に多くの経験ができる様、調査対象機関の紹介、調査テーマの調整を実施

(2) 研究経過

- ・打ち合わせ会(R1.05.24)

若手研究員の調査内容/目的の説明と調査内容の調整と、調査グループの検討

- ・第1回研究会(R1.05.30)

調査内容の整合と発展方法の検討

- ・第2回研究会(R1.07.25)

調査地域と期間の調整と内容を精査。「諸外国における海外旅行者および移民による交通事故の特徴」の調査対象機関と日程の選定

- ・現地調査(R1.09.08-15)

「諸外国における海外旅行者および移民による交通事故の特徴」をフィンランド、ドイツで実施(A チーム)

- ・第3回研究会(R1.10.04)

「諸外国における海外旅行者および移民による交通事故の特徴」の結果速報報告(A チーム)
「欧州諸国における地域特性に応じた救急搬送及び救急医療の提供体制—仏独瑞英を素材に—」の調査対象機関とヒアリングの日程調整(B チーム)

- ・第4回研究会(R1.12.02)

「諸外国における海外旅行者および移民による交通事故の特徴」の結果報告(A チーム)
「欧州諸国における地域特性に応じた救急搬送及び救急医療の提供体制—仏独瑞英を素材に—」の直前、調査対象機関と内容整合(B チーム)

- ・現地調査(R1.12.09-22)

「欧州諸国における地域特性に応じた救急搬送及び救急医療の提供体制—仏独瑞英を素材に—」(B チーム)をフランス・イギリス・スイス・ドイツで実施

- ・第5回研究会(R2.02.21)

「欧州諸国における地域特性に応じた救急搬送及び救急医療の提供体制—仏独瑞英を素材に—」(B チーム)の結果報告、および本年度調査の内報向け調整

(3) プロジェクトメンバー(敬称略)

PL 田久保 宣晃 (IATSS 会員/科学警察研究所交通科学部 部長)

斎藤 誠 (東京大学大学院法学政治学研究科 教授)

中村 彰宏 (IATSS 会員/横浜市立大学大学院国際マネジメント研究科 教授)

守谷 俊 (自治医科大学附属さいたま医療センター救命救急センター センター長)

吉田 長裕 (IATSS 会員/大阪市立大学大学院工学研究科 准教授)

特別研究員

長田 哲平 (宇都宮大学地域デザイン科学部 助教)

折橋 洋介 (広島大学大学院社会科学研究科法政システム専攻 教授)

高田 実宗 (駒沢大学法学部 専任講師)

福島 史人 (自治医科大学附属さいたま医療センター救急科臨床助教)

オブザーバー

大城戸 英雄 (警察庁交通指導課 係長)

竹内 康二 (警察庁交通局交通企画課 法令係)

<1970 国際発表>

1807B「健康起因防止のための実証的研究と防止対策の普及啓発に関する研究」

(1) 目的と概要

「国際発表」プロジェクトは、以下の目的のため、前年度に実施した研究プロジェクトの中から、著しい成果の認められたプロジェクトに対し、国際的な会議等で発表する機会を設けるものである。

目的:

- ・IATSS の研究成果を国際的に広く周知すること
- ・期待される若手研究者に国際的な会議への参加の機会を提供すること
- ・IATSS の国際的な認知度を向上させること

今年度は、平成 30 年度の研究調査プロジェクトから、1807B「健康起因防止のための実証的研究と防止対策の普及啓発に関する研究」が選出され、その成果をカナダ バンクーバーにて開催された「World Sleep 2019」において発表した。

(2) 実績

・発表イベント

イベント名 : World Sleep 2019

開催地 : カナダ バンクーバー

期間 : 令和元年 9 月 20 日～25 日

発表者 : 友岡 清秀 (順天堂大学医学部公衆衛生学講座 助教)

・発表テーマと内容

タイトル : 「Additive Effect of Visual Field Defect and Daytime Sleepiness on Motor Vehicle Crashes among Japanese Taxi Drivers」

発表形式 : 口頭発表とポスターセッション

(3) プロジェクトリーダー及び発表者

PL : 谷川 武 (IATSS 会員/順天堂大学医学部公衆衛生学教室 教授)

発表者: 友岡 清秀 (特別研究員/順天堂大学医学部公衆衛生学講座 助教)

4. 令和元年度研究調査内部報告会(R2.03.07)

新型コロナウイルス問題への対応のため延期

5. 外部施設視察による研究情報の収集(IATSS 視察会)

<IATSS 視察会>

開催日 : 令和2年1月9日

場所 : ツインリンクもてぎ

内容 : ①アクティブセーフティトレーニングパークでの交通安全教育の視察
②ホンダコレクションホール内でホンダ歴代製品の視察

6. 研究調査部会企画委員会

1)委員会開催実績

第1回委員会(R1.07.11)

- ・新任委員ガイダンス
- ・今年度の活動内容検討
- ・来年度の研究調査プロジェクト募集、採択方法の検討

第2回委員会(R1.10.17)

- ・内部報告会とスケジュール
- ・外部報告会とスケジュール
- ・来年度 ATRANS 研究カテゴリの検討
- ・研究プロジェクト説明文書の作成工程スリム化の検討
- ・IATSS Web ページのリニューアル

第3回委員会(R2.03.10)

- ・来年度研究調査プロジェクトの1次選考
- ・来年度 ATRANS 研究プロジェクトの確認、アドバイザー候補の検討

第4回委員会(PL 会議)(R2.03.19)

- ・来年度研究調査プロジェクトの2次選考
- ・来年度国際発表プロジェクトの選考

2)企画委員会メンバー(敬称略)

- 委員長 大口 敬 (IATSS 会員/東京大学生産技術研究所 教授)
- 一ノ瀬 友博 (IATSS 会員/慶應義塾大学環境情報学部 教授)
- 岩貞 るみこ (IATSS 会員/モータージャーナリスト)
- 太田 和博 (IATSS 会員/専修大学商学部 教授)
- 小川 和久 (IATSS 会員/東北工業大学教職課程センター 教授)
- 関根 太郎 (IATSS 会員/日本大学理工学部機械工学科 教授)
- 谷川 武 (IATSS 会員/順天堂大学医学部公衆衛生学教室 教授)
- 平岡 敏洋 (IATSS 会員/東京大学生産技術研究所 特任教授)
- 堀口 良太 (IATSS 会員/(株)アイ・トランスポート・ラボ 代表取締役)

II 広報出版事業

定期刊行物としては、IATSS Review(国際交通安全学会誌)Vol.44, No.1～3 および IATSS Research(英文論文集)Vol.43, Issue 1～4 を発行した。

1. 広報出版部会 学会誌編集委員会

1)IATSS Review の発行

Vol.44, No.1「特集/モータースポーツ」(R1.06.30)

Vol.44, No.2「特集/ドローン活用」(R1.10.31)

Vol.44, No.3「特集/老朽化する交通インフラの機能強化と進化」(R2.02.29)

2)発行形態の一部変更

(1)これまで、電子版公開として、当学会ホームページ(PDF)と J-STAGE の二本立てで行ってき
たが、重複作業の削減と正確なアクセス数把握のため、令和 2 年 2 月より J-STAGE への一
本化を行った(当学会ホームページにおいては、J-STAGE へリンクする形をとる)。

(2)Vol.44, No.3 より電子版をカラー化した(冊子体は従前どおりモノクロ印刷)。

3)委員会開催実績

第 1 回(第 321 回)(R1.05.07)

(1)新会員ガイダンス

(2)Vol.44, No.1 進捗報告

(3)Vol.44, No.2 進捗報告

(4)Vol.44, No.3 特集企画検討

第 2 回(第 322 回)(R1.06.13)

(1)Vol.44, No.1 進捗報告

(2)Vol.44, No.2 進捗報告

(3)Vol.44, No.3 特集企画検討

(4)投稿 19-01 査読者選定

第 3 回(第 323 回)(R1.07.11)

(1)Vol.44, No.1 発行報告

(2)Vol.44, No.2 依頼原稿の確認報告および審議

(3)Vol.44, No.3 進捗報告

(4)Vol.45, No.1 特集企画検討

メール審議(R1.07.30～08.06)

(1)投稿 19-01 査読報告および審議

第 4 回(第 324 回)(R1.09.06)

(1)Vol.44, No.2 進捗報告

- (2)Vol.44, No.3 進捗報告
- (3)Vol.45, No.1 特集企画検討
- (4)投稿 19-01 再査読者選定
- (5)特別寄稿について

第 5 回(第 325 回)(R1.11.06)

- (1)Vol.44, No.2 発行報告
- (2)Vol.44, No.3 依頼原稿の確認報告および審議
- (3)Vol.45, No.1 進捗報告
- (4)Vol.45, No.2 特集企画検討

第 6 回(第 326 回)(R1.12.23)

- (1)Vol.44, No.3 進捗報告
- (2)Vol.45, No.1 進捗報告
- (3)Vol.45, No.2 特集企画検討
- (4)投稿 19-01 再査読報告および審議
- (5)投稿 19-02 査読者選定
- (6)発行方法の一部変更について(電子版のカラー化、電子媒体の統一化、ほか)

第 7 回(第 327 回)(R2.03.04)

- (1)Vol.44, No.3 発行報告
- (2)Vol.45, No.1 依頼原稿の確認報告および審議
- (3)Vol.45, No.2 進捗報告
- (4)投稿 19-2 査読報告および審議
- (5)投稿 20-01 および 20-02 査読者選定
- (6)Vol.45, No.3 特集企画検討
- (7)執筆要領改訂について

3)学会誌編集委員会メンバー(敬称略)

- 委員長 篠原 一光 (IATSS 会員/大阪大学大学院人間科学研究科 教授)
- 加藤 一誠 (IATSS 会員/慶應義塾大学商学部 教授)
- 上條 俊介 (IATSS 会員/東京大学情報学環 准教授)
- 木林 和彦 (IATSS 会員/東京女子医科大学医学部法医学講座 教授・講座主任)
- 小竹 元基 (IATSS 会員/東京大学大学院新領域創成科学研究科 准教授)
- 杉本 洋一 (IATSS 会員/(株)本田技術研究所 先進技術研究所 上席研究員)
- 鈴木 弘司 (IATSS 会員/名古屋工業大学社会工学科 准教授)
- 平岡 敏洋 (IATSS 会員/東京大学生産技術研究所 特任教授)
- 二村 真理子 (IATSS 会員/東京女子大学現代教養学部国際社会学科経済学専攻 教授)

2. 広報出版部会 英文論文集編集委員会

1)定期発行

下記の通り、4号を定期発行した。

- Vol.43, Issue 1(H31.04)投稿論文のみ
- Vol.43, Issue 2(R1.07)“Analysis and prevention of traffic fatalities and injuries from the perspective of forensic medicine”特集
- Vol.43, Issue 3(R1.10)投稿論文のみ
- Vol.43, Issue 4(R1.12)“MaaS and ITS in Asia”特集、“Trends in the Development of Autonomous Vehicles and Challenges for Deployment in Society”特集の2本立て

2)次年度の発行計画及び特集企画

- Vol.44, Issue 1(R2.04 予定)投稿論文のみ
- Vol.44, Issue 2(R2.07 予定)投稿論文のみ
- Vol.44, Issue 3(R2.10 予定)“The ESRA (E-Survey of Road users’ Attitudes) initiative: towards global monitoring and analysis of road safety performance”特集
- Vol.44, Issue 4(R2.12 予定)“SDGs (Sustainable Development Goals) Oriented Mobility Planning in Indian Cities”特集

3)ジャーナルパフォーマンスの確認

- 定期的に編集委員会にて投稿数、登載率、被引用率等のジャーナルパフォーマンスの推移を確認した。

4)特集冊子版の発行

- IATSS イベント等での本誌PRを目的として、Vol.43より、特集号・特集セクションの冊子版を発行することとした。

5)Editorの増員

- 投稿論文数の増加に伴うEditorの審査担当論文数負荷を軽減するため、海外Editorを中心に増員を検討した。現Editorからの推薦募集、選定、就任打診を経て、12名の新規Editor(正式就任は来年度4月)を決定した。

6)委員会開催実績

第1回(175回)編集委員会(R1.05.10)

- IATSS Research 概要説明
- ジャーナルパフォーマンス報告
- 43-1号発刊報告
- 43-2号特集論文審査進捗報告
- 43-4号特集企画
- 44-3号及び44-4号特集テーマ検討
- 投稿論文審査進捗報告

第2回(176回)編集委員会(R1.07.10)

- ジャーナルパフォーマンス報告
- 43-2号発刊予定

- ・43-4号特集論文審査進捗報告
- ・44-3号及び44-4号特集企画検討
- ・投稿論文審査進捗報告

第3回(177回)編集委員会(R1.10.01)

- ・ジャーナルパフォーマンス報告
- ・43-3号発刊報告
- ・43-4号特集論文審査進捗
- ・44-3号及び44-4号特集企画詳細検討
- ・新論文審査システム(Editorial Manager)への移行説明
- ・盗用/二重投稿疑惑論文の処置検討
- ・投稿論文審査進捗報告

第4回(178回)編集委員会(R2.01.06)

- ・ジャーナルパフォーマンス報告
- ・43-4号発刊予定
- ・44-3号及び44-4号特集進捗報告
- ・新論文審査システム(Editorial Manager)への移行説明
- ・盗用/二重投稿疑惑論文の処置報告
- ・海外名誉顧問からの投稿/原稿区分取り扱い検討
- ・来年度からのEditor増員検討
- ・投稿論文審査進捗報告

7)英文論文集編集委員会メンバー(敬称略)

- 委員長 土井 健司 (IATSS 会員/大阪大学大学院工学研究科地球総合工学専攻 教授)
 上條 俊介 (IATSS 会員/東京大学情報学環 准教授)
 木林 和彦 (IATSS 会員/東京女子医科大学医学部法医学講座 教授・講座主任)
 小早川 悟 (IATSS 会員/日本大学理工学部交通システム工学科 教授)
 高橋 正也 (IATSS 会員/(独)労働者健康安全機構 労働安全衛生総合研究所
 過労死等防止調査研究センター センター長)
 福田 敦 (IATSS 会員/日本大学理工学部交通システム工学科 教授)
 松橋 啓介 (IATSS 会員/(国研)国立環境研究所社会環境システム研究センター 室長)

8) 英文論文集編集委員会メンバーを除く Editorial Board Members(敬称略)

●Associate Editors (18名)

- K. Bhalla (The University of Chicago, USA)
 J. -M. Burkhardt (The French institute of science and technology for transport & University Paris Descartes, French)
 N. Christie (University College London, UK)
 A. M. Fillone (De La Salle University, the Philippines)
 M. Hagenzieker (Delft University of Technology, the Netherlands & the Norwegian Centre of Transport Research TØI, Norway)
 S. Han (The Korea Transport Institute, Republic of Korea)
 B. Heydecker (University College London, UK)

- E. Papadimitriou (Delft University of Technology, the Netherlands)
 R. M. Pendyala (Arizona State University, USA)
 I. Radun (University of Helsinki, Finland & Stockholm University, Sweden)
 N. Saunier (Polytechnique Montreal, Canada)
 N.N. Sze (Hong Kong Polytechnic University, Hong Kong, China)
 M. Tira (University of Brescia, Italy)
 G. Tiwari (Indian Institute of Technology Delhi, India)
 M. Vanderschuren (University of Cape Town, South Africa)
 S. Le Vine (State University of New York at New Paltz, USA & Imperial College London, UK)
 C. Watling (Queensland University of Technology, Australia)
 S. V. Wong (Malaysian Institute of Road Safety Research & University Putra Malaysia, Malaysia)

● **Editorial Advisory Board Members (8名)**

- R. Allsop (University College London, UK)
 B.E. Horn (World Road Safety Institute, France)
 P. Jones (University College London, UK)
 E. Keskinen (University of Turku, Finland)
 M.E.H. Lee-Gosselin (Université Laval, Canada)
 G.M. Mackay (University of Birmingham, UK)
 D. Mohan (Jawaharlal Nehru University, India)
 F. Wegman (Delft University of Technology, the Netherlands)

III 褒賞事業

今年度は、第 40 回国際交通安全学会賞の贈呈式を行うとともに、第 41 回国際交通安全学会賞として、業績部門 2 件、著作部門 2 件、論文部門 1 件の授賞を決定した。

1. 第 40 回(平成 30 年度)国際交通安全学会賞贈呈式

平成 31 年 4 月 12 日(金)経団連会館において、平成 30 年度研究調査報告会と合同で開催した。

2. 第 41 回(令和元年度)国際交通安全学会賞

《業績部門》

当部門は、理想的な交通社会の実現に関して、研究、施策の推進、普及、啓発、あるいは機器の開発、設備・施設の建設などに多大な業績をあげたものを対象に、過去 3 年以内に成果が顕著となった業績の中から選考される。

例年同様、公募による推薦と委員会メンバーの調査によって、候補業績の情報を収集し、今年度の候補業績 7 件について検討を行った。

その中で、「バス事業の可視化がもたらす地域社会への貢献」について、11 月 11 日に現地視察およびヒアリングを行った。また、「県内すべての小学 6 年生を交通安全リーダーとする交通安全教育活動」について、11 月 12 日に、ヒアリングを行い、2 件が選出された。

出典:第 41 回国際交通安全学会賞パンフレット

業績題目: バス事業の可視化がもたらす地域社会への貢献

-利便性向上と観光需要創出へのあくなき挑戦-

受賞者 : イーグルバス 株式会社

受賞理由:

イーグルバス株式会社は、独自のバス事業改善システムを導入し、緻密なデータ分析に基づく可視化による持続可能なバス事業を実践しています。徹底したマーケティング・リサーチの手法により、運行コストを削減するだけでなく、利便性が高まり、バス利用者が増加するという成果をもたらしています。また、ハブ&スポークと称する路線バス乗り継ぎシステムの導入で、過疎地域での集約拠点形成と地域観光の需要創出を実現しました。ハブ&スポークは、バスセンター的役割を担うだけでなく、調剤薬局、クリニック、郵便局など、生活サービスの施設を併設することで、小さな町の拠点としての機能を有しています。観光センター、ショッピング施設、体験観光施設を併設し、観光客の誘致にも成功するなど、地域社会へ大きく貢献しているといえます。また、バス事業改善システムのノウハウを、ラオスのビエンチャン・バス公社に提供し、国際貢献に尽力しています。国内外に通用する事業を実践しているという点は高く評価されるものであります。

業績題目： 県内すべての小学6年生を交通安全リーダーとする交通安全教育活動

受賞者： 静岡県

受賞理由：

静岡県では、「交通安全リーダー制」というユニークな交通安全教育活動を、県内すべての小学校で行っています。「より良い交通安全環境づくりとともに、小学校高学年生を交通安全リーダーに指名してリーダーワッペンを着用させ、リーダー自身が交通ルールの規範を示すとともに、下級生の交通マナーなどを指導させることを通じて、悲惨な子どもの交通事故を根絶しようとするもの」として始められました。

この取り組みは、小学6年生全員がリーダーとなり、すべての6年生がリーダーとしての自覚を求められ、危険箇所マップの作成や地域関係者との意見交換に関わることによって、安全な地域づくりを警察や行政や他人に任せっぱなしとせず、地域社会への主体的な関わり方と関心を身につけることが期待されます。また、そうした教育を小学6年生から55歳までの県出身者がすでに受けていることで、地域自治を通じた交通安全の向上といった社会関係資本の充実に貢献してきたと考えられます。

通学路の安全が注目されている昨今、小学6年生を軸に地域の交通安全関係者のコミュニケーションを促進し、地域の交通安全環境を向上させてきた取り組みであり、他の都道府県にも広く普及することが期待されます。

≪ 著作部門 ≫

当部門は、理想的な交通社会の実現に関して、過去2年間に初版として刊行された優れた著作・出版物の中から選考される。

今年度は、候補著作97点を各委員が分担で査読を行い、審査した結果、2件が選出された。

出典：第41回国際交通安全学会賞パンフレット

著作名： コーチングによる交通安全教育：メタ認知力の向上をめざして

受賞者： 太田 博雄

受賞理由：

コーチングによる交通安全教育は、近年着目されている教育法であるコーチングの交通安全教育方法へ活用に観点をしています。自ら目標を掲げ、モチベーションを高めることを支援し導いていくコーチングを主題に、その概念・特徴ならびに具体的な教育手法を理論編と実践編の二部構成で紹介しています。

理論編では、ティーチングとコーチングの基本的な考え方とその違いの説明から始まり、学習者とコーチとの対話などを通して進行するコーチングによる過程における共通認識を示すGROWモデルと、その目的設定に用いられるSMARTモデルが事例紹介されています。コーチングの基本技法としてリファレンス的な節も付記されており、コーチの心構えとして信頼関係構築の重要性、そして傾聴、質問、承認、フィードバックといった場面で用いる表現などがまとめられており、多様な場面での引用ができるかたちとなっています。

実践編では、初心者教育、企業での安全教育、プロドライバー教育への活用、高齢運転者の免許更新時講習といった対象者別に対するコーチングの特徴やポイントが紹介されています。

コーチングを適用した教育プログラム開発、コーチングによる教育実践例についても交通安全教育事例を取り上げているので、新しい交通安全教育プログラムを開発する際のイメージがつかみやすいのも特徴となっています。

ティーチングの限界を感じられる交通安全教育の対象者に対しても、さらなる学習効果を挙げる事が期待されるコーチングを体系的かつ実践的にまとめている点を評価いたしました。

著作名 : 電鉄は聖地をめざす 都市と鉄道の日本近代史

受賞者 : 鈴木 勇一郎

受賞理由 :

電鉄は、「主に日露戦争後から 1920 年代にかけて東京や大阪といった大都市で誕生し、現在の「大手私鉄」につながってくるような鉄道会社群のこと」と定義されています。電鉄が田園都市としての住宅地、ターミナル駅に併設されたデパート、沿線の遊園地等をつくりながら大都市郊外を開発してきたという通説に対して、複数の事例の丁寧な分析を通じて、反証と補正に取り組んでいます。著者が長年積み重ねてきた私鉄による郊外住宅地開発、都市形成、鉄道史に関する研究成果に基づき、阪急が電鉄を核とした郊外開発のモデルをつくり、それを東急や西武が応用して都市空間をつくった、という通説に対して、電鉄の形成過程の初期段階において最も大きな推進力となったのは「社寺参詣」であるとの指摘は興味深い主張です。

社寺と電鉄がどのように関わり合いながら日本の都市を形成してきたのかという問題意識を序章で述べ、第一章から第五章までは、寺社と電鉄のユニークな関係が明らかにされています。終章では、東京で実施された 1930 年代の交通調整や地下鉄と私鉄の相互直通運転の促進等を通じて、同様な生活様式の人々が住む都市空間における電鉄のあり方は横並びとなったと指摘されています。筆者は、わが国の大都市郊外はもっと多様性があるように、それを生み出す力は電鉄にあるのではないかと期待しているようでもあります。

取り上げている問題の社会的有用性、著作の新規性や視点の独創性、歴史学的な丹念な調査を重ねた専門性が高く評価されました。

《論文部門》

当部門は、国際交通安全学会誌(IATSS Review)及び英文論文集(IATSS Research)に掲載された論文の中から選考される。

今年度は、IATSS Review Vol.43.No.2、Vol.43.No.3、Vol.44. No.1 に掲載された論文および論説 6 編、IATSS Research Vol.41.Issue.4、Vol.42.Issue.2、Vol.42.Issue.3、Vol.42. Issue.4、Vol.43. Issue.1、Vol.43.Issue.2、に掲載された論文 40 編について各委員が分担で査読をし、絞り込みを行い審査した結果、1 件が選出された。

論文名 : Modeling cyclists' facility choice and its application in bike lane usage forecasting

受賞者 : Nguyen Duc-Nghiem、Nguyen Hoang-Tung、Aya Kojima、Hisashi Kubota

受賞理由 :

自転車利用者が、歩道、車道の自動車車線部分、車道のいちばん縁石寄り、車道に新たに用意された自転車専用車線のうちの、いずれの空間を選んで走行するのかを予測するモデルを開発しました。さいたま市内15か所の道路において観測されたデータをもとに構築した二項ロジスティック回帰モデルです。分析手法として特徴的な点のひとつが、近年注目されているベイジアンモデル平均を用いて、丁寧な検証に基づいて影響力の少ない説明変数を除去し、より単純で扱いやすく、かつ予測性能の高いモデルを選択したことです。

最終的に得られたモデルでは、車道幅員、自転車のタイプ(競技用自転車あるいはマウンテンバイク)、路側帯の幅員、新たに設置された自転車専用車線の幅員は、車道上の走行の選択に影響を与える変数として、また歩道の有効幅員、バス停の存在、駐停車車両の存在、性別、子供用座席の有無、グループでの自転車利用か否かは、歩道走行の選択に影響を与える変数として、それぞれモデルに含まれることを示しています。特にバス停の存在、歩道の有効幅員、自転車のタイプが大きな影響力を与えていることが明らかになっています。構築されたモデルは、自転車専用車線の導入の事前事後の様子が変わるデータでも検証され、きわめて高い説明力を持っていることが確認されています。これらにより、新たに導入する自転車専用車線がどのように利用されるかを予測することが可能になりました。事業効果の事前推定、事業後の事後評価において有用な方法論を提示しています。

限られた道路空間内で歩行者などに配慮して安全に走行できる自転車空間を用意し、利用してもらうことが重要な課題です。本論文は、この課題に対して現地調査を実施し、そのデータを用いて土木工学、都市工学分野の知見と共に数理統計学の新しい優れた手法を組み込んで実用面で応用可能なモデルを構築し、その有用性を、事前事後データを用いて検証しています。快適で安全なモビリティ社会の実現に資する学術的かつ実践的で、また分野横断的なアプローチを用いて優れた成果を出しております。

3. 令和元年度褒賞助成部会企画委員会

1)委員会開催実績

第1回委員会(R1.06.19)

- ・褒賞委員会の活動の概要について
- ・年間活動スケジュールについて
- ・「業績部門」「著作部門」の募集と、各部門の選考方法について
- ・「業績部門」候補の検討
- ・「著作部門」査読の割り振り
- ・「論文部門」査読の割り振り
- ・視察日程の仮決定

第2回委員会(R1.08.29)

- ・「業績部門」候補の検討
- ・「著作部門」審査および査読の割り振り
- ・「論文部門」審査および査読の割り振り
- ・企画調整委員会の情報共有

第3回委員会(R1.11.11)

- ・「業績部門」候補の検討
- ・「著作部門」審査および査読の割り振り
- ・「論文部門」審査および査読の割り振り
- ・年次交流会の情報共有

第4回委員会(R2.01.16)

- ・「著作部門」審査および候補決定
- ・「業績部門」候補、推薦文担当決定
- ・「著作部門」候補、推薦文担当決定
- ・「論文部門」候補、推薦文担当決定
- ・Web ページ英文掲載について情報共有
- ・会員信任投票、理事会、贈呈式の準備

2)視察・ヒアリング

- ・イーグルバス 株式会社 視察・ヒアリング(R1.11.11)
- ・静岡県 ヒアリング(R1.11.12)
- ・九州産交バス 株式会社 視察・ヒアリング(R2.01.14)

3)会員信任投票

候補信任(R2.02.12 締切)

4)理事会

候補承認(R2.02.27)

5) 褒賞助成部会企画委員会メンバー(敬称略)

委員長 中村 文彦 (IATSS 会員/横浜国立大学 副学長)

小川 和久 (IATSS 会員/東北工業大学教職課程センター 教授)

斎藤 誠 (IATSS 会員/東京大学大学院法学政治学研究科 教授)

関根 太郎 (IATSS 会員/日本大学理工学部機械工学科 教授)

藤井 聡 (IATSS 会員/京都大学大学院都市社会工学専攻 教授)

松橋 啓介 (IATSS 会員/(国研)国立環境研究所社会環境システム研究センター 室長)

矢ヶ崎 紀子 (IATSS 会員/東京女子大学現代教養学部国際社会学科コミュニティ構想専攻 教授)

IV IATSS フォーラム事業

国際交流も踏まえた研修事業として、1985年9月に設立され、アジア諸国の若い有望な人材を日本に55日間招請し、各参加国での持続可能な交通・社会の実現に寄与する人材の育成を進めている。

今年度は、年二回の IATSS フォーラムを開催し、インドからの研修生を正式に受け入れて、10 ヶ国40名の研修生にてフォーラムを実施した。また、IATSS フォーラム実行委員会では、研修内容の進化について、新研修プログラムの方向性に関する検討を昨年度に引き続きを行った。

一方、来年度の IATSS フォーラムへ向け、11月中旬から12月中旬にかけて、10 ヶ国で各国現地委員会メンバーとともに研修生の選抜を行い、各国4名、計40名の参加者を確定した。

更に、今年度は11月9日、10日に第12回国際委員長会議を日本にて開催した。IATSS フォーラム参加 10 ヶ国の国際委員長が一堂に会し、2021年から実施予定の新研修プログラム内容と現状の IATSS フォーラム運営上の課題について情報共有し 解決に向けて議論を行った。

事業各項目の内容は以下のとおりである。

1. 現地委員会との協議結果を反映した新研修プログラムの推進

現在55日間で開催している IATSS フォーラムでの研修を、より効率的に学ぶことができるように、新研修プログラムの調査・検討を行い、IATSS フォーラム実行委員会を通して49日間の研修プログラムとして内容をまとめた。

2020年に一部プログラムの試行を行い、2021年より全面的に新研修プログラムにて IATSS フォーラムを開催する。

2. IATSS 研究調査活動等とのコラボ展開

15日間をかけて実施する「持続可能な地域づくり」テーマスタディの導入の位置づけとして、各国からの研修生に「持続可能な社会とは何か」、「持続可能とはどういう意味か」、「何故、持続可能性が必要なのか」、「持続可能な発展とは」といった内容の理解を深めるために、新規に第62回 IATSS フォーラムにおいて IATSS 森本章倫会員が Smart City and Compact City for sustainable society について講義を行った。

3. IATSS フォーラム開催

第 61 回 IATSS フォーラム

期間:令和元年 5 月 18 日～7 月 6 日

開講式: 出席 142 名

修了式: 出席 117 名

第 62 回 IATSS フォーラム

期間:令和元年 9 月 21 日～11 月 9 日

開講式: 出席 132 名

修了式: 出席 122 名

研修生:40 名(男性:15 名、女性:25 名)

国名

カンボジア	4 名
インド	4 名
インドネシア	4 名
ラオス	4 名
マレーシア	4 名
ミャンマー	4 名
フィリピン	4 名
シンガポール	4 名
タイ	4 名
ベトナム	4 名

職業

官公庁	7 名
大学・教育機関	8 名
民間企業	21 名
その他(NGO 等)	2 名

4. 研修プログラム

“Thinking and Learning Together”をモットーに、現在のアジア各国と日本の課題を題材としている。テーマを『持続可能な地域づくり』とし、先ず専門家による講義を通してテーマ理解を深めた後、「神戸市の阪神淡路大震災からの復興過程から学ぶ、回復力のあるまちづくり」、「京都市の伝統文化、技術の継承と現代への融合」、「四日市公害から学ぶ、環境保全に取り組みながら進める持続可能な社会作り」の実践状況を現場視察も交えて学んだ。また、一般セミナーや他の視察先でも、研修テーマとの関連性を高めることで、『持続可能な地域づくり』を実現するために様々な分野からのアプローチが必要なことを学んだ。研修最終日には、各視察、講義から学んだことを基に「自国の課題を題材としたグループ研究発表」を行った。

- ・各分野の専門家を講師とし、ディスカッション中心のセミナー
- ・研究課題に対する多角的・論理的な考え方、解決策立案手法を習得するグループ研究
- ・日本とアジア諸国間の相互理解を目指した体験学習と交流イベント

5. 第12回 IATSS フォーラム国際委員長会議

日程：令和元年11月9日(日)～10日(月)

場所：三重県鈴鹿市 鈴鹿サーキットホテル

参加者：約20名(各国 IATSS フォーラム国際委員長、IATSS フォーラム実行委員、IATSS フォーラム事務局)

目的：

- ・IATSS フォーラム3ポリシー及び新研修プログラム内容の共有と合意形成
- ・現地側、日本側でフォーラム事業を運営する中で課題となっている事に関して、共有と課題解決に向けての議論

6. IATSS フォーラム部会 IATSS フォーラム実行委員会

1) 委員会開催実績

令和元年度は、8回の実行委員会を開催した。

第129回実行委員会(H31.04.26)

- ・新プログラム検討 進捗共有

第130回実行委員会(R1.05.18)

- ・新プログラム検討 進捗共有

第131回実行委員会(R1.07.06)

- ・新プログラム検討 進捗共有
- ・国際委員長会議

第132回実行委員会(R1.08.01)

- ・IATSS フォーラム ポリシー検討
- ・新プログラム検討 進捗共有

第 133 回実行委員会(R1.09.06)

- ・第 63 回、64 回 IATSS フォーラム 2 次審査(書類審査)結果報告
- ・第 63 回、64 回 IATSS フォーラム 最終審査スケジュール調整
- ・新プログラム検討 進捗共有
- ・IATSS フォーラム ポリシー検討
- ・国際委員長会議 進捗共有

第 134 回実行委員会(R1.09.21)

- ・第 63 回、64 回 IATSS フォーラム 2 次審査(書類審査)結果審議
- ・新プログラム検討 進捗共有
- ・IATSS フォーラム ポリシー最終確認

第 135 回実行委員会(R1.11.09)

- ・国際委員長会議実施前の最終確認

第 136 回実行委員会(R2.01.30)

- ・国際委員長会議の振り返り
- ・第 63 回、64 回 IATSS フォーラム最終審査結果共有
- ・新プログラム検討 進捗共有
- ・国際同窓会 進捗共有
- ・同窓会プロジェクト審議

2) IATSS フォーラム実行委員会メンバー(敬称略)

委員長 吉田 長裕 (IATSS 会員/大阪市立大学大学院工学研究科 准教授)

北村 友人 (IATSS 会員/東京大学大学院教育学研究科学校教育高度化専攻 准教授)

鈴木 弘司 (IATSS 会員/名古屋工業大学社会工学科 准教授)

中村 彰宏 (IATSS 会員/横浜市立大学大学院国際マネジメント研究科 教授)

平岡 敏洋 (IATSS 会員/東京大学生産技術研究所 特任教授)

IATSS フォーラム部会特別委員

足立 文彦 (金城学院大学 名誉教授)

溝田 勉 (長崎外国語大学 名誉教授)

3) 現地委員会(敬称略)

IATSS フォーラム研修生選抜のための書類審査/最終面接審査の実施。

・4名/国(合計40名)の研修生の選抜(応募総数411名/10ヵ国)

(1) IATSS フォーラム タイ委員会

第35回委員会 (R1.11.22)

委員長代理	Spawan Wongprayoon	(天然資源環境省 DEQP)
委員	Worrawan Asawakunn	(IATSS フォーラム タイ同窓会会長)
オブザーバー	崎谷 唯比古	(在タイ日本国大使館 二等書記官)
アドバイザー	江沢 辰也	(エイシヤンホンダ 社会活動推進部)
	Rachnida Sangethontong	(エイシヤンホンダ 社会活動推進部)
事務局	Bajaree Saguanwongse	(天然資源環境省 DEQP)

(2) IATSS フォーラム インドネシア委員会

第35回委員会 (R1.11.23)

委員長	Ridwan Gunawan	(前インドネシアモーターサイクル協会会長)
委員	Abdi Hamdan	(IATSS フォーラム インドネシア同窓会会長)
アドバイザー	田口 鉄朗	(アストラホンダ 役員)
事務局	Daniarti Gumulja	(インドネシア事務局)

(3) IATSS フォーラム フィリピン委員会

第29回委員会 (R1.11.26)

委員長	Maridon Onda Sahagun	(科学技術省 事務次官補)
委員	Evangeline P. Bautista	(アテネオデマニラ大学理工学部長)
	Mauro Ariel S. R. Yonzon	(フィリピン文化センター副所長)
	Jules Meneses	(IATSS フォーラム フィリピン同窓会会長)
オブザーバー	田口 利行	(在フィリピン日本国大使館 専門調査員)
アドバイザー	Louie Soriano	(ホンダカーズフィリピン 販売部門 GM)
事務局	Leonard Ladiero	(科学技術省)

(4) IATSS フォーラム シンガポール委員会

第33回委員会 (R1.11.26)

委員長	George Abraham (GA グループ Ltd. 会長兼代表取締役)	
委員	Soh Yi Da	(NUSS 管理委員)
	Tan Swee Leng	(IATSS フォーラム シンガポール同窓会代表)
オブザーバー	杉田 明子	(在シンガポール日本大使館 参事官)
アドバイザー	廣澤 繁高	(ブキバトドライビングセンター 所長)
事務局	Jenny Ng	(NUSS)

(5) IATSS フォーラム ベトナム委員会

第 24 回委員会 (R1.12.01)

委員長代理 Nguyen Canh Binh (アルファブック社長 IATSS フォーラム事務局長)
委員 Pham Duy Khuong (IATSS フォーラム ベトナム同窓会会長)
Ngyuen Hyuen Chau (IATSS フォーラム ベトナム同窓生 55 回生)
オブザーバー 中馬 愛 (在ベトナム日本国大使館 二等書記官)
アドバイザー 丸山 和也 (ホンダベトナム)
事務局 Vu Huy Hoang (ベトナム インテレクチャル コーポレーションセンター)

(6) IATSS フォーラム カンボジア委員会

第 21 回委員会 (R1.12.02)

委員長代理 Oum Ravy (プノンペン王立大学 副学長)
委員 Khim Leang (現地事務局長 CJCC 所長)
大西 義史 (CJCC アドバイザー)
Sy Vanna (IATSS フォーラム カンボジア同窓会会長)
オブザーバー 時岡 利和 (在カンボジア日本大使館 一等書記官)
事務局 Nuon Kossoma (CJCC 人材開発 課長補佐)

(7) IATSS フォーラム マレーシア委員会

第 36 回委員会 (R1.12.05)

委員長 Dato' Zuraidah Atan (ズライダーアタン弁護士事務所)
委員 Mohamad Nazmi Bin Ismail (公共サービス部人材開発課所長補佐)
Lim Poh Aun (IATSS フォーラム マレーシア同窓会会長)
オブザーバー 杉田 光彦 (在マレーシア日本国大使館 一等書記官)
アドバイザー Ahmad Sophien Abu Kassim (ホンダマレーシア購買部門 副社長)
事務局 Yusrizam Bin Sharifuddin (UMCIC 上級講師)

(8) IATSS フォーラム ミャンマー委員会

第 17 回委員会 (R1.12.07)

委員長 Zaw Min Win (ミャンマー商工会議所連合 会頭)
委員 Maung Maung Lay (ミャンマー商工会議所連合 副会頭)
Myo Thet (ミャンマー商工会議所連合 副会頭)
Aye Tun (ミャンマー工業協会 副会長)
Aung Zaw Oo (IATSS フォーラム ミャンマー同窓会会長)
オブザーバー 滝川 尚樹 (在ミャンマー日本国大使館 一等書記官)
事務局 Pyai Pyai Pwint (ミャンマー商工会議所連合会 47 回生)

(9) IATSS フォーラム インド委員会

第 2 回委員会 (R1.12.17)

委員長	Dinesh Mohan	(シブナダル大学名誉教授・インド工科大学客員教授)
委員	Geetam Tiwari	(インド工科大学教授)
	Snehil Kumar	(LEAD インディア フェローダイレクター)
アドバイザー	Vinay Dhingra	(ホンダモーターサイクル&スクーターインド)
事務局	Bhawana Luthra	(LEAD インディア エグゼクティブダイレクター)

(10) IATSS フォーラム ラオス委員会

第 20 回委員会 (R1.12.19)

委員長代理	Vanhpheng Khounbolay	(ラオス青年同盟)
委員	Chanthanom Theangthong	(IATSS フォーラム ラオス同窓会代表)
オブザーバー	廣瀬 久也	(在ラオス日本大使館 二等書記官)
事務局	Sisomphone Tipanya	(ラオス青年同盟)

V 国際交流事業

1. 国際フォーラム実行委員会

1) 第5回国際フォーラム(GIFTS)の企画

- ・創立50周年に向けて、IATSSの向かうべき方向性を議論する会議体である創50戦略会議との連携のもと、第5回GIFTSの企画を推進
- ・シンポジウムのサマリー及び当日発表PPT資料をホームページで公開した

2) 第5回GIFTS開催概要(敬称略)

①シンポジウム(公開):「社会経済開発と交通安全—アジアの国際協力における「交通文化」の意味」

- 日時 : 令和元年10月25日(金)13:30~16:35
場所 : 東京大学 伊藤国際学術研究センター
開会挨拶 : 武内 和彦(IATSS 会長)
趣旨説明 : 北村 友人(IATSS 会員)
基調講演 : 澤田 康幸(アジア開発銀行チーフエコノミスト)
司会 : 中村 彰宏(IATSS 会員)
パネリスト : Mirjam Sidik (AIP 財団)、Alejandro Schwedhelm (世界資源研究所)、
小泉 幸弘(国際協力機構)、澤田 康幸(アジア開発銀行チーフエコノミスト)

②セミナー/ワークショップ(公開):「交通文化と交通安全に関するセミナー&ワークショップ」

- 日時 : 令和元年10月28日(月)10:30~16:30
場所 : ステーションコンファレンス東京
趣旨説明 : 北村 友人(IATSS 会員)

・セミナー「日本の交通安全施策と意識」

- 報告Ⅰ : 近藤 共子(内閣府)
報告Ⅱ : 平松 伸二(警察庁)
報告Ⅲ : 濱田 禎(国土交通省)
報告Ⅳ : 中村 英樹(IATSS 会員)

・ワークショップ「交通文化と交通安全対策の国際展開の方向性」

- 司会 : 森本章倫(IATSS 会員)
討議 : 福田敦(IATSS 会員)、中村文彦(IATSS 会員)、吉田長裕(IATSS 会員)

3) 第6回GIFTSの企画

第6回日程は令和2年11月26日(木)~27日(金)の2日間を予定している。

4) 委員会開催実績

第1回実行委員会(R1.05.28)

- ・第6回 GIFTS 開催内容の検討
- ・第7回 GIFTS 開催方針の検討
- ・GIFTSとGRATSの協力に関する討議

第2回実行委員会(R1.07.01)

- ・招聘者の検討
- ・タイムテーブル詳細の検討
- ・今後の進め方

第3回実行委員会(R1.10.11)

- ・討議の進め方と登壇者依頼内容の確認
- ・中長期計画に関する討議

5) IATSS 国際フォーラム(GIFTS)実行委員会メンバー(敬称略)

- 委員長 北村 友人 (IATSS 会員/東京大学大学院教育学研究科学校教育高度化専攻 准教授)
大口 敬 (IATSS 会員/東京大学生産技術研究所 教授)
中村 彰宏 (IATSS 会員/横浜市立大学大学院国際マネジメント研究科 教授)
中村 英樹 (IATSS 会員/名古屋大学大学院環境学研究科都市環境学専攻 教授)
堀口 良太 (IATSS 会員/(株)アイ・トランスポート・ラボ 代表取締役)
森本 章倫 (IATSS 会員/早稲田大学理工学術院創造理工学部社会環境工学科 教授)

2. ATRANS(Asian Transportation Research Society)への業務委託

バンコク(タイ)に本拠地を置く ATRANS への研究調査の業務委託とバンコクにて開催されたカンファレンスを共催した。

1)業務委託

下記の 5 テーマの業務委託研究を実施した。

- (1) Evaluation of Unsafe Driving Behavioral Change by Road Safety Education
- (2) Enhancing ATRANS Safety Map Application with Road Safety Engineering Toolkits
- (3) Improvement on Car Safety Driving of Senior People by Safety Education Promotion
- (4) Legal Challenge for Autonomous Vehicle in Thailand and ASEAN
- (5) Motorcycle Accidents: Understanding and Analysing the Accident Data

< 中間報告会 >

開催日： 令和元年 8 月 22 日

場所： Chatriam Hotel Riverside Bangkok, Thailand.

< 最終報告会 >

開催日： 令和 2 年 1 月 8 日

場所： ホンダ八重洲ビル(東京)

2)カンファレンス共催

イベント名： 12th ATRANS Annual Conference (Symposium)

テーマ： “Transportation for A Better Life: Smart Mobility for Now and Then”

開催日： 令和元年 8 月 23 日

場所： Chatriam Hotel Riverside Bangkok, Thailand.

共催内容： セッションの開催、ブース出展など

3.ESRA2 プロジェクトへの貢献

平成 30 年度より当学会は「ベルギー道路交通安全研究所」“Vias institute”がとりまとめ/調整を行っている国際プロジェクト“ESRA(E-Survey of Road users’ Attitudes)”に日本の研究機関として参加している。

本年度の活動の展開において、日本を対象とした調査と収集データの分析、東南アジアにおける調査対象国の拡大に貢献した。

データの分析およびレポートの作成

32 か国約 35,000 人の道路利用者を対象とした意識調査を分析することにより、シートベルト及びチャイルドシートに関する各国の規範意識及び交通行動を分析し、交通安全施策に資する報告書を作成した。なお、この報告書はその他のテーマ別報告書および ESRA プロジェクトの概要とともにオンラインで公表された。

調査対象国の拡大

ベトナム、タイ、マレーシアにおいて ESRA2 への参加を呼びかけ対象国の拡大につなげた。

報告会の開催

第 5 回 GIFTS セミナー(R1.10.28)において、日本の交通参加者を対象にした安全意識調査の結果について報告を行った。

4. 交通事故削減に取り組む国際的な組織とのネットワークの強化

創立 50 周年に向けた国際性強化の取り組みの一環として、交通事故死傷者削減につながる次の課題の発見、若手研究者の発見、効果的な取り組みの発見を行うため、既にネットワークを構築した国連組織、NGO 等との定例会合の実施に加え、交通に関わる国際会議へ参加した。

【アジア】

- ・交通事故データベースである International Road Traffic and Accident Database (IRTAD) のアジア地域への導入議論に参加し、導入へ向けた IATSS の貢献の可能性について関連諸機関と検討を開始
- ・Asia Injury Prevention Foundation (AIPF) CEO Ms. Mirjam Sidik を GIFTS スピーカーとして招聘
- ・ITS World Congress 参加によるネットワークの強化と拡大

【北米】

- ・World Bank との対話を通じた新規ネットワーク構築
- ・World Resource Institute (WRI) との継続対話を通じたネットワーク強化。会員にも対話に参加いただき事務局主導によるネットワーク強化活動に対する理解向上を実施
- ・WRI Urban Mobility Associate Mr. Alejandro Schwedhelm を GIFTS スピーカーとして招聘
- ・Polytechnique Montreal (モントリオール理工科大学) と AI を活用した交通事故分析手法の情報交換
- ・AAA Foundation Work shop にて自動運転車の社会的影響を議論

【欧州】

- ・World Health Organization (WHO) が事務局を務める United Nations Road Safety Collaborations (UNRSC) 総会参加を通じた、次期 Decade of Actions for Road Safety に対する各組織の動向把握と新規ネットワーク構築
- ・Organisation for Economic Co-operation and Development (OECD) 傘下で IRTAD を運営する International Transport Forum (ITF) との新規ネットワーク構築
- ・WHO とスウェーデン政府共催の 3rd Ministerial Conference on Road Safety 参加を通じた、次期 Decade of Actions for Road Safety に関する情報入手とネットワークの強化と拡大
- ・WHO Coordinator Unintentional Injury Prevention Dr. Nhan Tran との継続対話
- ・交通問題に取り組む NGO のグローバルネットワーク組織 (The Alliance) との定例会合実施

【その他】

- ・交通問題に取り組む若者のグローバル組織 “World Youth Assembly for Road Safety” のケニア、コロンビアのメンバー、African Union の事務局、エチオピアの国交相等との接点を持ち、交通問題が顕在化しているアフリカへの橋頭保構築に着手

VI 事業運営等

1. 新型コロナウイルス対応

1) 令和元年12月からの新型コロナウイルス問題への対応として、感染リスクの最小化のため下記対応を実施した(なお令和2年度も継続中)。

① イベントの延期、開催形態の変更等

- ・内部報告会:延期
- ・第41回理事会及び第19回評議員会:みなし決議による実施
- ・委員会:原則としてWeb会議での開催
- ・海外出張(研究調査プロジェクト等):延期(令和2年度へ)
- ・事務局業務:在宅勤務を中心とし、出勤を抑制

② Web会議システムの活用

・これまで使用してきた“Skype”に加え、多数での参加により適した“Zoom”を導入し、会員間の対面でのコミュニケーション機会の確保と感染リスク最小化につなげた。

2. 学際研究者育成プログラム(連携会員(仮称)制度)の試行準備の実施

・学際研究者育成プログラム(連携会員(仮称)制度)の試行(新規の試み)

IATSSでの活躍を期待できる研究者を連携会員(仮称)として委嘱し、研究調査プロジェクトへの自主的な参画を働きかけ、また、特に連携会員(仮称)の中で参加プロジェクトに関連した研究を要望する若手研究者には、研究調査部会企画委員会と連携しつつ、研究調査の委託等を行い、必要な費用を支給する事を趣旨とする制度を、令和2年度の試行実施に向け企画調整員会、「人」委員会にて検討し、募集を行った。結果、土木・都市・交通工学系13名、交通心理学系5名、医学系1名、経済学系1名の計20名の応募があった。